## 大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)準備会(第2回)

日時:平成31年2月20日(水)13:00~

場所:十勝総合振興局 講堂

## 議事次第

- 1. 開会
- 2. 議事
- (1) 大雪山国立公園フォーラムの開催結果について
- (2) 大雪山国立公園ビジョン (素案) について
- (3) その他
- 3. 閉会

## 資料一覧

- 資料1 大雪山国立公園フォーラム「新たな管理運営体制で世界に誇れる山岳国立 公園を目指す〜妙高戸隠連山・尾瀬の協働型管理運営体制に学ぶ〜」結果 概要
- 資料2 大雪山国立公園ビジョン(素案)
- 参考資料1 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けて
- 参考資料 2 大雪山国立公園ビジョン作成に関する参考資料集
- 参考資料 3 大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)準備会(第 1 回) 議事概要

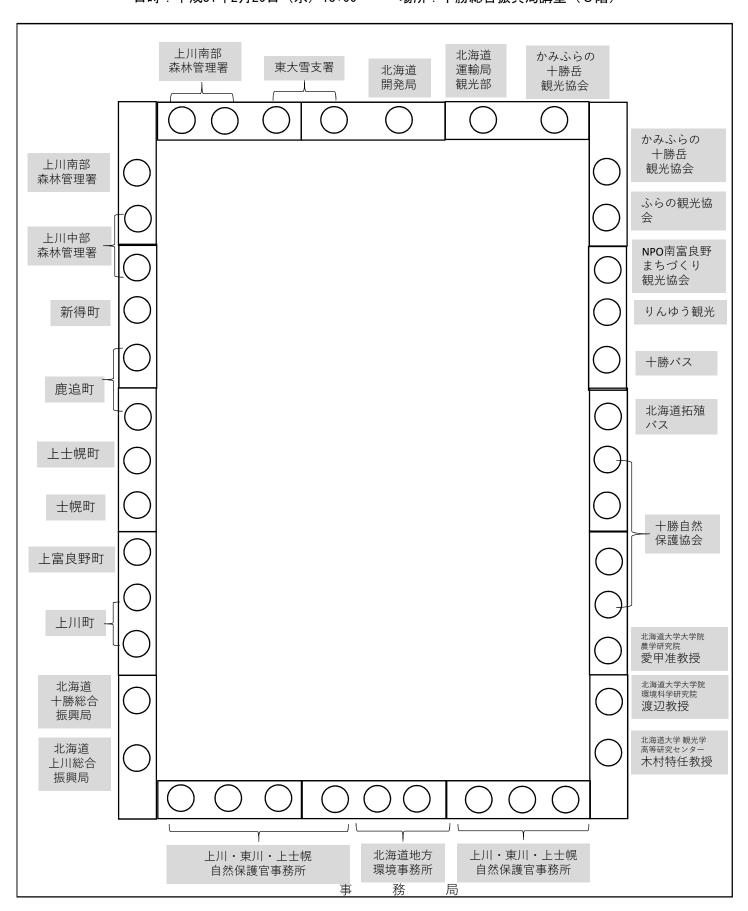
## 大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)準備会(第2回) 出席者名簿

	機関・団体名	所属	役職等	氏名
関係行政	北海道上川総合振興局	環境生活課	主査(山岳環境)	福井 拓郎
	北海道十勝総合振興局	環境生活課	自然環境係長	宮崎 広幸
	富良野市			欠席
改機関	上川町	産業経済課	課長補佐	西木 光英
12,1			主事	菅家 祐太
	東川町			欠席
	美瑛町			欠席
	上富良野町	企画商工観光課	主査	石川 雅憲
	南富良野町			欠席
	士幌町	産業振興課	主事	増田 紀
	上士幌町	商工観光課	主幹	鶉橋 浩行
	鹿追町	商工観光課	観光振興係長	橋爪 奈都恵
			観光振興係	野口 愛美
	新得町	産業課	主事	武藤 修嗣
	上川中部森林管理署		署長	中澤 文彦
			地域林政調整官	川﨑 文圭
	上川南部森林管理署		総括事務管理官	佐藤 英典
			森林官(上富良野)	中村 崇
			事務管理官 (管理)	村上 雅典
	十勝西部森林管理署東大雪支署	総務グループ	事務管理官(管理担当)	日野 道俊
				小菅 尊祐
	北海道開発局	带広開発建設部	技術管理専門官	佐々木 収
	11. 14. 14. 14. 14. 14. 14. 14. 14. 14.	技術管理課	*	-tt
	北海道運輸局観光部	帯広運輸支局	支局長	藤田 雅博
観光	(一社) 層雲峡観光協会			欠席
協	(一社) ひがしかわ観光協会			欠席
会	(一社)美瑛町観光協会			欠席
	(一社) かみふらの十勝岳観光協会		会長	青野 範子
			事務局長	長田 公一
	(一社) ふらの観光協会		事務局長	石川 芳
	NPO 法人南富良野まちづくり観光協		事務局理事	小林 茂雄
	会			
交通事業者	(株) りんゆう観光	層雲峡事業所	所長	山﨑 弘二
	ワカサリゾート(株)			欠席
	道北バス(株)			欠席
有	旭川電気軌道(株)			欠席
	十勝バス(株)	乗合部	乗合課長	若森 克芳
	北海道拓殖バス(株)		代表取締役専務	中木 基博

自然保	大雪と石狩の自然を守る会			欠席
自然保護団体	十勝自然保護協会		代表	川内 和博
			共同代表	佐藤 与志松
			共同代表	安藤 御史
			理事	植田 幹夫
研	北海道大学大学院農学研究院		准教授	愛甲 哲也
究者	北海道大学大学院環境科学研究院		教授	渡辺 悌二
1	北海道大学観光学高等研究センター		特任教授	木村 宏
事	北海道地方環境事務所		統括自然保護企画官	大林 圭司
務	北海道地方環境事務所	国立公園課	課長補佐	千田 智基
局	同 上川自然保護官事務所		首席自然保護官	桝 厚生
	同 東川自然保護官事務所		自然保護官	齋藤 明光
	同 上士幌自然保護官事務所		自然保護官	橋口 峻也

## 【座席表】

大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)準備会(第2回) 日時:平成31年2月20日(水)13:00~場所:十勝総合振興局講堂(3階)



## 大雪山国立公園フォーラム 新たな管理運営体制で世界に誇れる山岳国立公園を目指す 〜妙高戸隠連山・尾瀬の協働型管理運営体制に学ぶ〜 【結果概要】

日 時: 平成31年1月28日(月)

 $14:00\sim17:00$ 

場 所:道北アークス大雪アリーナ多目的ルーム

- 1. 開会(大雪山国立公園連絡協議会会長 上川町長 佐藤 芳治)
- 2. 趣旨説明
  - 環境省上川自然保護官事務所 首席自然保護官 桝 厚生
    - 「大雪山国立公園の協働型管理運営体制を目指して」

大雪山国立公園では、課題を解決して世界に誇る山岳国立公園を目指すため、既存の大雪山国立公園連絡協議会を拡充した総合型協議会の準備会を開催し、国立公園のビジョンを議論するなど、協働型管理運営体制を構築に向けた取組を進めている旨説明があった。

#### 3. 事例発表

- (1) 妙高戸隠連山国立公園
  - 環境省信越自然環境事務所 国立公園課長 玉谷 雄太
    - 「妙高戸隠連山国立公園連絡協議会の取組・現状」

平成 28 年度に設立された妙高戸隠連山国立公園連絡協議会の経緯、体制、取組、ビジョンについて説明があり、同協議会の立上げ当初から積極的に運営に携わり、協働型管理運営の取組を実施している妙高市環境生活課長 岡田 雅美氏を紹介いただいた。

■ 妙高市環境生活課長 岡田 雅美 氏

#### 「"温故知新、そして、日本一愛される国立公園"に向けた妙高市の取り組み」

妙高戸隠連山国立公園ビジョン(基本理念:温故知新、そして日本一愛される国立公園へ)のもとに実施している国立公園の保全に関する取組(ライチョウの保全、イネ科植物の除去)と、国立公園の活用に関する取組(良好な景観形成、一目五山の絶景 32 選等の情報発信、ロングトレイルの設置)について紹介いただいた。また、これらの取組を通じて、発信力の強化、顔見える関係の形成、人と人とのつながりやネットワークの形成などが、協働型管理運営体制を構築したことのメリットであると感じられた旨紹介いただいた。

#### (2) 尾瀬国立公園

■ 環境省片品自然保護官事務所 庄司 亜香音

#### 「「新・尾瀬ビジョン」について~「あなた」と創る「みんな」の尾瀬~」

平成18年に策定された「尾瀬ビジョン」の改定経緯と、平成30年9月に改定された「新・ 尾瀬ビジョン」の概要と具体的な取組のイメージや推進体制について説明があり、民間事業者 の立場で同ビジョンに対する取組を進めている東京電力ホールディングス株式会社 リニュー アブルパワー・カンパニー 水利・尾瀬グループ課長 川崎 一弘 氏を紹介いただいた。

■ 東京電力ホールディングス株式会社 リニューアブルパワー・カンパニー 水利・尾瀬グループ課長 川﨑 一弘 氏

#### 「新・尾瀬ビジョンの行動理念実現に向けて ~尾瀬業務1年生の欲張り仕掛け~」

尾瀬と東京電力ホールディングス株式会社の関わりの経緯やこれまで継続的に取り組んできた木道の敷設や森をまもる取組などについて説明があった後、「新・尾瀬ビジョン」に対応する取組として、大清水湿原回復プロジェクト、低コスト式安全表示の試験実施などの取組を紹介いただいた。また、検討中のさらなる取組案もお話をいただいた上で、企業活動の方向性について尾瀬国立公園と共有できる点があったこと、協働型管理運営体制により行政機関との連携した取組が可能になったこと等のメリットを紹介いただき、大雪山国立公園関係者にも協働型管理運営体制の参画をお勧めするメッセージをいただいた。

#### 4. パネルディスカッション

**<テーマ>**「大雪山国立公園で目指す協働型管理運営体制について」

**<コーディネーター>**北海道大学大学院農学研究院准教授 愛甲哲也氏

#### **<パネリスト>**

妙高市環境生活課長 岡田雅美氏

東京電力ホールディング ス株式会社 リニューアフ・ルハ<sup>°</sup> ワー・カンハ<sup>°</sup> ニー 水利・尾瀬グ ループ 課長 川崎一弘氏 一般社団法人かみふらの十勝観光協会会長 青野範子氏

上川町産業経済課課長補佐 西木光英氏

環境省上川自然保護官事務所首席自然保護官 桝厚生

#### く概 要>

#### (コーディネーター・愛甲氏)

今回のフォーラムは協働型管理運営体制をテーマとしているが、そもそも我が国の国立公園制度は、米国や豪州等の国立公園とは異なり、国有地だけでなく公有地や私有地も含めて指定して、地方自治体、事業者、住民等が協力してする管理する制度として構築されているため、国立公園の制度ができたときから既に協働型の管理運営を行うこととなっていると言える。

一方、平成 26 年に環境省が設置した有識者の検討会により協働型管理運営体制を推進する必要性が提言されたが、このことは、地域が抱えている問題、さらに地球環境問題など新たな課題に対応するために、既にある協働型管理運営体制の範囲や内容をグレードアップして行こうという動きであると理解できる。

今日の岡田さん、川崎さんから示唆に富んだ事例を発表いただいたが、はじめに、その内容に関して、青野さんと西木さんから、感想や質問、また大雪山国立公園での課題などがあればお伺いしたい。

#### (青野氏)

6年前から実家の旅館、十勝岳温泉湯元凌雲閣を経営しているが、日本人だけでなく海外の入山者が増えている。これまで冬の1月、2月は休業期間だったが、現在は、海外からのバックカントリーのスキー客が宿泊する期間となり、宿泊に占める外国人の割合は90%である。そのため、冬の安全管理、特に外国人向けの安全管理が課題であると思う。特に妙高戸隠連山国立公園の事例にあった「顔

の見える管理」が今後は必要だと感じ、顔の見える関係を築きつつ、民間事業者としてはこれから自 分の庭先のところから、管理に協力していこうと思った。

#### (コーディネーター・愛甲氏)

安全管理については関係機関との連携も必要であると思うが、その観点から苦労話などあるか。

#### (青野氏)

1週間ほど前に十勝岳で台湾人が2人遭難したが、うち(凌雲閣)の宿泊者で、通報したのは私である。ちょうど3日前に警察署、消防署、山岳関係者と飲み会をしていて警察の方と電話番号の交換をしていたのですぐに連絡して、想定される利用ルート情報などを提供し、翌日の捜索開始から30分で発見することができた。顔の見える関係がとても大事だと感じた。

#### (コーディネーター・愛甲氏)

具体的な事例をお話しいただき、良かった。私が携わっている活動の関係で言うと、昨年度の「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」に際しては、環境省はじめ札幌の山岳会、美瑛町や上富良野町、そして登山口の観光協会や各旅館・ホテルに協力いただいた。その時にもまさに顔の見える関係を作って連携することが重要だと感じた。

次に、自治体の立場から西木さんはいかがか。

#### (西木氏)

上川町で観光振興を担当する立場から、現在の状況や課題をお話ししたい。近年、旅行形態が変化し、インターネット等の普及により口コミ等が旅行先の選択に影響を与えている。層雲峡地区は北海道有数の観光地として発展を遂げてきたが、こうした状況変化の中、入込数については苦戦が続いている。今後は素晴らしい自然環境に加えて、文化・食・地元との交流等を含めた滞在型観光を進めて行くこと、また、ガイド同伴が必要な場所を設けて、そうした場所を利用するためのルールづくりも必要であると考えている。

妙高市の岡田さんの発表の中で、景観に関する勉強会を行い廃屋の問題に取り組んでいる旨紹介があったが、解決の考え方のようなものが見いだされたのかお伺いしたい。また、尾瀬の事例についてはボランティアやガイドも含めて民間によるミズバショウの植栽活動が印象的だったが、東京電力の川崎さんには、尾瀬では民間のマンパワーがどの程度期待されているか、また、逆に民間として自治体からの関わりにどの程度期待されているかなどをお伺いしたい。

#### (岡田氏)

廃屋は全国的な問題で、法的には個人の資産であり行政がなかなか手を入れられないのが現実。危険防止の観点があれば行政は手を出せるものの、具体的にはそこまでは踏み込めていない状況。国立公園内では景観面からもう一歩踏み込めないかとは感じるが、今後検討が必要と感じるところ。

#### (川崎氏)

民間ボランティアの活用については今回が初めての取組であり、今後その結果をどのように活かしていくかについては、現在、検討中のところ。一方、自治体との関わりとしては地元の村長さんや環境省に活動へ参加をいただくなど連携した取組を進めることができていてありがたい。

#### (コーディネーター・愛甲氏)

東京電力さんは土地所有者として国立公園に関っているとのことであるが、色々な取組を考え、地元の皆さんを巻き込んで行こうとする時の、会社や川崎さんご自身のモチベーションがどこにあるのだろうということをお伺いしたい。

#### (川崎氏)

尾瀬の協議会はそれなりに成熟していて、協議会は全体的な取りまとめはするが、それとは別に何か個別のことをやりたいとか課題があると思ったら、関係者で集まり話をして、どんどん協力して進めていく所があると感じている。このような状況の中で、私個人としては関係者を皆「仲間」だと思っている意識がある。

#### (コーディネーター・愛甲氏)

今の話は課題を共有したりアイディアを出し合ったりする仲間が出できているということで、非常に良い話だと思う。今までの話を受けて桝さんに、新たな協働型管理運営体制は今までと何が違うのか、新しいステージに上がろうとしている思いも含めてコメントをお願いしたい。

#### (桝)

現状の体制では、山岳地域での登山道の荒廃問題の解決でも、利用拠点でのエコツーリズム推進でも、限界があると感じている。例えば、登山道については、既存の大雪山国立公園連絡協議会では行政の集まりなので、対応できることは管理に必要な行政手続の推進や予算に関する部分のみ。一方、今必要なことは利用者も管理に参加していただくことなどで、そのためには民間の方と協力して人を集めたり、民間資金を集めたりと、民間との連携が必要になってくる。

また、エコツーリズム推進については、行政でできることは計画づくりや地域ルールづくりといういわば器の部分であり、必要なのはそれに加えて人材育成、人の呼び込み、情報発信であり、これらは、観光、地域振興、交通事業など分野の方が得意とするところ。

このように考えると、課題解決には行政だけではできない部分がたくさんあるため、色々な立場の 人が共通の目標をもって参加して取り組んで行くことができる枠組みが今こそ必要である。

#### (コーディネーター・愛甲氏)

ここで大雪山へのアドバイスを岡田さんと川崎さんにお願いしたい。

#### (岡田氏)

大雪山の広大な山岳景観および温泉、峡谷、湖などは北海道特有ものであり世界に通用するものだ。協議会の目的として滞在型のエコツーリズムで地域の活性化を図ることがメインになると思うが、大雪山のブランドを大事にしてもらいたい。大雪山のブランドも各々の方が唱えているだけではなく、一元化して発信することが大事である。

#### (川崎氏)

大雪山は日本一大きな国立公園であり、つまり、日本一のポテンシャルを持っているということを意味する。そのポテンシャルをどのように生かしていくかが重要であると思う。大雪山の協議会に望むのは、5年後10年後に大雪山国立公園協議会で構築した素晴らしい運営方法を、是非とも尾瀬にご教授いただきたいということ。

#### (コーディネーター・愛甲氏)

プレッシャーを頂くと同時に、参考になるお話をいただき感謝。最後に西木さんと青野さんには、 大雪山ビジョンや協議会に期待することについてお伺いしたい。

#### (西木氏)

上川町でも、世界に誇る山岳リゾートを目指すことを目標にしている。具体的には大雪山大学という市民交流型事業で直接大雪山の自然に触れ、大雪山からの恵みの水や食の部分で大雪山の価値をしっかり将来に引き継いで行く取組をしていきたい。

また、総合型協議会に期待するものは、自治体だけではできないことで民間の方々と一緒に取り組

める部分について、顔を突き合わせ情報を共有しながら進めて行けること。

#### (青野氏)

大雪山のシンボルマーク作りをしたら皆で目指すものが一つ形に現れると思う。十勝岳方面にはビジターセンターが無いので、民間として山の安全や滞留の拠点を作れたらと思う。尾瀬では民間が主体的にやっていると聞いたので、大雪山でも民間の立場でできる範囲で実現したい。

#### (コーディネーター・愛甲氏)

これまで大雪山では、概念的な話が多い中で妙高戸隠連山、尾瀬国立公園から具体的な話を頂いたので、具体的にイメージでき始めたと思う。2月には準備会の2回目の会合が予定されているので、本日の話が参考になると考える。ご登壇いただいた皆様本日はありがとうございました。

5. 閉会 (環境省北海道地方環境事務所 統括自然保護企画官 大林 圭司)

### 大雪山国立公園フォーラム

# 新たな管理運営体制で世界に誇れる山岳国立公園を目指す ~妙高戸隠連山・尾瀬の協働型管理運営体制に学ぶ~



開会の挨拶 大雪山国立公園連絡協議会 会長 佐藤 芳治 上川町長



「"温故知新、そして、日本一愛される国立公園" に向けた妙高市の取組」 妙高市環境生活課長 岡田 雅美 様



「新・尾瀬ビジョンの行動理念現実に向けて~尾瀬業務1年生の欲張り仕掛け~」 東京電力ホールディングス株式会社川崎 一弘 様



パネルディスカッション「大雪山国立公園で目指す協働型管理運営体制について」 コーディネーター:

北海道大学大学院農学研究院 愛甲 哲也 准教授



閉会の挨拶 環境省北海道地方環境事務所 大林 圭司 統括自然保護企画官



会場の様子(参加者66名)

## 大雪山国立公園ビジョン【素案】 <ビジョンのキャッチコピー記載>

大雪山国立公園連絡協議会

#### 1. 大雪山国立公園の優れた価値と歩み

#### (1) 大雪山国立公園の優れた価値

- ○大雪山国立公園の広大で原生的な山岳景観は、日本でここだけにしかない、北海道、 そして大雪山国立公園関係 10 市町が持つ優れた資源です。
- ○広大な山岳景観を有する理由は、表大雪地域・東大雪地域の広範囲にわたり中生代に 日高累群層が堆積¹し、その上に、新生代に火山活動により形成された溶岩や火砕流が 堆積した²台地を基盤とした高地が形成されたためです。表大雪地域では溶岩や火砕流 が非常に厚く堆積したため広大で平坦な高山帯が形成され、東大雪地域では標高に応 じてさまざまな種類の木々から成る大樹海が形成されました。
- ○これら表大雪地域、東大雪地域に共通する一体的な基盤が広大であるため、その上に 展開する地形地質も雄大で、生物多様性が高い状態で大規模に確保されています。そ のため、現在も噴煙を上げる旭岳や十勝岳を含む多様な火山、十勝三股をはじめとす る大きなカルデラ、高山植物のお花畑、ヒグマ等の大型哺乳類、高山蝶をはじめとす る昆虫類、湿原などが人間活動により失われず、原生的な状態で残されてきました。 この他、各地の利用拠点では、峡谷と柱状節理、湖、滝、多様な温泉、さらには、大 雪山の名にふさわしいたくさんの雪や雪氷現象、周氷河地形などが見られ、景観要素 の多様性が際立っています。

【図】大雪山国立公園の地史的成り立ちの模式図

- ○このような大雪山国立公園が持つ優れた価値は多様な観点から高い評価を得ています。 地形・地質の観点から、とかち鹿追ジオパークが日本ジオパークに認定されたほか³、 文化の観点から大雪山を含むストーリーが日本遺産⁴に認定されました。
- ○過去には世界自然遺産の候補にならなかったものの、顕著な価値があるとの意見(環境省・林野庁による平成15年世界自然遺産候補地に関する検討会)もあった他、大雪山国立公園を含む各地で様々な枠組みへの認定、登録に向けた取組が進められています。
- ○これらの動きそのものが、国立公園として保全されたことで優れた価値を有する証で あると言えます。

【図及び写真】とかち鹿追ジオパークの写真及びロゴマーク

【図及び写真】日本遺産の写真及びロゴマーク

<sup>1</sup> これらの堆積はおよそ1億4000万年前(日本シームレス地質図 https://gbank.gsj.jp/seamless/download/downloadIndex.html)。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> これらの堆積はおよそ 500 万年~100 万年前 (小疇・野上他編 2003「日本の地形 2 北海道」東京大学出版会 p118, 129、昆野安彦 2006「大雪山自然観察ガイド」株式会社山と渓谷社 pp12-13)。

<sup>3</sup>日本ジオパーク委員会により平成25年12月認定。

<sup>4</sup> カムイとともに生きる上川アイヌ。文化庁により平成30年5月認定。

#### コラム:大雪山について

大雪山という名称が文献上最初に登場したのは、1903(明治 36)年に岩谷松五郎著「日本名勝地誌 第九編 北海道之部」(博品館発行)においてです。その後、1918(大正7年)に旭川中学校教諭の小泉秀雄が「北海道中央高地の地学的研究並植物分布の研究」を発表し、表大雪地域の北部を大雪山と呼称してその最高峰を旭岳とする整理を行いました。この考え方が現在でも一定の影響力を持つのは確かです。

しかし、本ビジョン1 (1)「大雪山国立公園の優れた価値」において示したとおり大雪山国立公園の地史的成り立ちが一体的であること、1934(昭和9)年に大雪山国立公園が現在の区域で指定されて80年以上が経過して大雪山の名称が公園区域全体で浸透したことを踏まえ、今回新たに大雪山国立公園の将来像を作成することを契機として、本ビジョンでは「大雪山」という場合大雪山国立公園全体を捉えることとします。

なお、表大雪地域は、上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、富良野市、南富良野町の地域、 東大雪地域は、新得町、鹿追町、士幌町、上士幌町の地域を指すこととします。

#### (2) 大雪山国立公園の歩み

- ○大雪山国立公園は1934(昭和9)年に指定されましたが、大雪山が有する価値を発掘して活かす取組は、それ以前から行われてきました。
- ○国立公園制度ができる遥か以前の1911(明治44)年、当時の愛別村長、太田竜太郎が現在の層雲峡を「霊山碧水」と名付けて国立公園として経営すべきとの建白書(意見書)を逓信大臣に送付したのが最も古い記録です。また、1924(大正13)年には実業家や研究者が中心となり大雪山調査会が結成され、学術研究が大きく進展しました。その成果をもとに利用者向けの登山案内書やパンフレットが作成され、高山植物保護地域の設定運動等が行われました。
- ○大雪山国立公園の地域は、日本の中でさきがけて先見の明をもって、自然資源の価値 を科学的に明らかにし、保全と活用を行ってきた特色ある地域であることを改めて認 識する必要があります。

【写真】大雪山調査会が作成した書籍やパンフレット

○第二次世界大戦後 60 年くらいは、戦後の復興、高度経済成長、その後のバブル経済等を背景として、大雪山国立公園内においても、観光をはじめとする産業の成長と自然保護との間の調整が大きな課題となった時代でした。1954(昭和 29)年の洞爺丸台風により発生した風倒木処理のため、林業が急速に隆盛したほか、硫黄等の鉱物資源の採掘、電源や農業、生活用水等の確保のためのダム建設、観光道路の建設等の計画が進みました。自然保護運動の盛り上がりもあり、次第に大雪山国立公園の価値に及ぼす影響が著しい建設計画は中止される一方、国立公園では適切な利用のための整備や維持管理すらできないという誤ったイメージも生じてしまいました。

【写真】観光道路のキャッチフレーズ「下駄ばきでお花畑へ」を象徴する当時の写真

- ○21 世紀に入り持続可能な社会の構築が社会全体の課題となりました。
- ○2006(平成 18)年には全国の国立公園に先駆けて、原生的な雰囲気の有無など、自然環境に合わせて登山体験を享受できるような登山道の整備や維持管理を目指した、登山道の管理水準(現在の「大雪山グレード」)が定められました<sup>5</sup>。
- ○2007(平成 19)年の大雪山国立公園管理計画では、重要な自然環境を厳正に保全しつつ、 それらを体験するために必要な良好な利用空間を確保して自然とのふれあいを増進 するといった、保護と利用をバランスよく両立させるワイズユースの考え方が打ち出 されました。
- ○また、この頃から表大雪地域の一部を中心として携帯トイレを普及する取組が始まりました。この動きは、2018(平成30)年には大雪山国立公園連絡協議会と道内の山岳関係18団体が共同で「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」を発出することに結実し、官民が連携して大雪山国立公園全体で携帯トイレを普及する方針が対外的発信されました。これまで大きな問題とされていたトムラウシ南沼野営指定地や美瑛富士避難小屋周辺を中心として普及啓発活動や携帯トイレブースの増設や新規設置に向けた動きが進んでいます。
- ○本格的な少子高齢化、人口減少社会を迎える中で、自然環境保全をはじめとする環境の問題は、経済や社会の課題と相互に密接に関連し、複雑化していることが分かってきました。今後は、大雪山国立公園では2007(平成19)年の管理計画の考え方を継承しつつも、国立公園の管理運営においては、地域社会の課題の解決に国立公園が寄与するといった発想のもとで関係者が連携していくことも重要となっています。

#### コラム:大雪山グレード

大雪山グレードは、登山者が自己責任で行動判断を行う時の目安(区間における行動判断の要求度や難易度)を示し、力量に応じた登山を推奨するものです。大雪山国立公園の場合、登山ルートの難易度が高ければ高いほど、自然環境もまた原生的になるという関係にあり、大雪山グレードは登山道の整備、保全、修復、維持管理作業の目安にもなります。北海道地方環境事務所で2006(平成18)年に策定され、2015(平成27)年6月に改定されています。

大雪山グレード1 大雪山の自然とふれあう探勝ルート

大雪山グレード2 大雪山の自然とふれあう軽登山ルート

大雪山グレード3 大雪山の自然を体感する登山ルート

大雪山グレード4 大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート

大雪山グレード5 大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート

\_

<sup>5</sup> 平成27年度改訂。

#### 2. 大雪山国立公園の現状と課題

#### (1) 大雪山国立公園に影響を与える自然的・社会的環境

#### 1) 気候変動

- ○人間活動の拡大に伴う温室効果ガスの排出により、気候変動が生じ、気温の上昇や 極端な降水や熱波等が発生しています。
- ○大雪山国立公園では、高山植生の生息適地の減少、紅葉の色づきの低下、山岳地域での降水量の増加、ササや亜高山帯森林植生の増加が調査の結果予測されました。これにより、紅葉の色づきの低下による観光への影響や、降水量の増加による登山道の侵食、荒廃の深刻化が懸念されます。
- ○さらに、近年、大雪山国立公園内でも局地的な集中豪雨による被害も生じています。 【写真】ササの広がりを示す五色ヶ原の写真

【図】将来気候における紅葉最盛日の変化(2096~2100年、RCP8.5の場合)

#### 2) 人口減少と高齢化、ライフスタイルの変化、価値観の多様化

- ○大雪山国立公園関係市町の人口は、全国的な傾向と同様減少傾向です。2014(平成26)年に有効求人倍率が1倍を超え、社会全体で人手不足の状況です。国立公園に関係するNPOや地域活動団体、観光、交通等の業界でも同様で、さらには施設の維持管理を行うあらゆる関連業界(例えば、建築、土木、電気等)で担い手不足が深刻です。
- ○ライフスタイルの変化と価値観の多様化はレジャーの多様化ももたらしました。
- ○余暇活動の参加人口のうち、国内観光旅行は 2011 年以降連続して1位であるものの、その数は減少しています。一方、余暇活動の内容は多様になっています。旅行形態についても、団体旅行から個人旅行へ変化し、個人の指向や好みに合ったスタイルに変化しました。
- ○温泉地に団体で宿泊して景勝地を探勝する旅行形態を前提としてサービスを提供する宿泊施設や事業者は苦戦する一方、その場所でしか見られない特色のある資源を発掘して活用した特定の地域がSNS等で話題になり、その地域の旅行者だけが伸びるという二極化の状況も生じています。

#### 【写真】美瑛町青い池

#### 3) 外国人利用者の増加

○政府による観光立国の実現に向けた取組を背景に、我が国の外国人観光客数は急速 に増加しています。また、国立公園においては、2016(平成28)年に訪日外国人利

<sup>&</sup>lt;sup>6</sup> 国立研究開発法人国立環境研究所 2018「平成 29 年度生物多様性分野における気候変動への適応策検 討業務報告書」

<sup>7</sup>公益財団法人日本生産性本部 レジャー白書概要発表資料 2009~2018

用者数を 2020 年までに 1,000 万人にすることを目標とした、「国立公園満喫プロジ ェクト」が立ち上がり、官民連携でのインバウンド対応の取組が今まさに進められ ています。

- ○北海道を訪れる外国人の数はこれまで 60~70 万人で推移してきましたが、平成 25 年に100万人を超え、現在300万人に到達する勢いです。統計情報がある層雲峡地 区においても、ここ数年で、外国人宿泊者数は20万人を越え、層雲峡ビジターセン ターの利用者についても外国人が3千人程度から6千~7千人に増加しました。
- ○山岳地域、山麓地域を問わず、数多くの外国人旅行者が大雪山国立公園に訪れるよ うになったといえます。
- ○政府は観光を我が国の基幹産業に成長させて観光先進国を目指す\*等、観光政策を重 視することとしており、今後もさらに訪日外国人が増加することが予想されます。
- 【図】北海道を訪れる外国人観光客数(2008~2018年)
- 【図】大雪山国立公園の利用者数の変化(1998~2018 年)

#### (2) 大雪山国立公園の課題

○気候変動、人口減少と高齢化、ライフスタイルの変化、価値観の多様化、外国人利用 者の増加は、大雪山国立公園の固有の課題に影響を与え、課題を深刻化させています。

#### 1) 登山道を中心とした山岳地域の荒廃

- ○大雪山国立公園には延長約 300km の登山道がありますが、火山性堆積物に起因する 脆弱な路面であるため、登山者の踏圧が荒廃の大きな要因となります。また、近年 の局地的な集中豪雨も荒廃を加速化させています。国立公園内の登山道の約75%が 保全上の課題がある区間とされています。
- ○また、誘導標識、案内板、避難小屋等の各施設の老朽化も課題です。特に誘導標識 や案内板の多言語表記が老朽化したまま進まず、外国人利用者の利用に問題が生じ ています。
- ○さらにトイレの無い野営指定地や避難小屋を中心として、野外のし尿処理が問題と なっています。排泄物やトイレットペーパーが放置されて景観が悪化し、登山道か ら外れて植生帯へ踏み込みし尿排出することで高山植生の消失が進んでいます。

【図】大雪山国立公園の歩道の荒廃状況(保全対策ランクの区間を示した図)

【写真】登山道侵食

【写真】野外し尿散乱(ティッシュ等、トイレ道)

○これらは、国立公園の自然環境の保全上の問題であるばかりか、地域社会としての

<sup>8</sup> 北海道経済部観光局資料

<sup>9</sup> 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議「明日の日本を支える観光ビジョン─ 世界が訪れたくな る日本へ 一」(2016 (平成28) 年3月)

課題でもあります。登山道の荒廃、施設の老朽化、し尿の問題は、地域の観光資源の劣化を意味します。また、これらにより登山者数が減少することは、各市町の観光客の減少を意味します。山岳地域の荒廃がさらに進行すれば山麓での湧水を活用した取組等のイメージもダウンして地域の産業にも影響が及ぶ可能性があります。

#### 【図】大雪山国立公園の登山者数の変化(黒岳登山者数の変化)

- ○これらの課題に十分対応できない理由は、社会の人口が減少して高齢化するなど時代が変化していく中で、公共事業も削減され行政において予算を確保することが困難になってきていること、従来維持管理の担い手となってきた山岳会の会員の高齢化による担い手不足も一因と言われています。
- ○一方、大雪山国立公園の利用に関する調査では協力金の支払いについて積極的な意思がある者が一定程度いたり<sup>10</sup>、大雪山に繰り返し訪れ、登山道の補修や維持管理、清掃活動を行うイベント等にも参加するような大雪山のファンが増えたりしています。
- ○大雪山国立公園を利用したい人がお金や労力を出し合い、そのニーズに合わせた空間づくりをしていくような利用者負担の発想等、課題に対応するための新たな発想が必要です。

【写真】登山道補修イベント「たまには山へ恩返し」

#### 2) 利用拠点の低迷

- ○大雪山国立公園の利用者数が減少して事業者の経営が行き詰った結果、廃屋が増えるなど、利用拠点が低迷していることも大きな課題です。大雪山国立公園の従来の景勝地の多くが閑散としていたり、たまに賑わいがあるかと思うとアジア系外国人の団体旅行客(今後、急速に個人化が進み、減少していくと推測されている¹¹。)によるものだったりします。
- ○その原因として、各利用拠点で旅行形態の変化に応じた対応が模索されているもの の、近年の旅行形態の変化に未だ十分に対応しきれていないことが考えられます。
- ○近年、団体で自然の景勝地を周遊するスタイルから大きく変化し、旅行は個人の志向や好みにあわせて行われ、その楽しみ方も遊べる、学べる、癒されるといった体験できるもの(コト消費)が人気で、旅行先で見る対象もその土地でしか見られないものであるのか、本物であるのかという点が重視されます。これらに加え、旅行者がスマートフォンで写真をとりSNSで発信したくなるような見栄えも重要と

<sup>10</sup> 平成 28 年度大雪山国立公園協働型管理体制検討業務報告書 p75-76、平成 30 年度大雪山国立公園自動車利用適正化対策業務報告書

<sup>&</sup>lt;sup>11</sup> 平成 29 年 12 月 19 日明日を支える観光ビジョン構想会議第 16 回観光戦略実行推進タスクフォース「参考資料: 旅行動態の変化の状況」

なってきます。

- ○そのため、既存の景勝地を再評価し、活かしきれていない観光資源を発掘し、それらがなぜこの土地でしか見られないのかなどのストーリー作りを行い、整理をした上で発信し、旅行者に体験をしてもらい満足を与えることが課題です。景観要素が際立って多い大雪山国立公園であれば、十分に可能と考えます。
- ○また、これらの取組を行う前提として、旅行前の人に情報を届けることや、利用者が現地を訪れた際に対象地や体験活動にアクセスするための情報発信が必要です。 さらに、大雪山国立公園を訪れてからも、ビジターセンターや宿泊施設、野外の案 内板等や、登山道において、近年増加する外国人旅者が満足するための多言語化も 意識した適切な表示を含む情報提供が課題です。

【写真】糠平で撤去された廃屋の写真

7

#### 3. 大雪山国立公園の目指す姿

- ○これまで述べた大雪山国立公園の課題を解決し、大雪山国立公園の優れた価値を守り 魅力を高めるとともに、それを世界中に発信し共有することを通じて、にぎわいを創 出して、大雪山国立公園を世界に誇る山岳国立公園にしていきます。
- 〇具体的には、次の(1)~(3)の姿を目指していきます。それをひとことで表現すると、次のとおりです。

提案 1 「地域で支える大雪山 世界を魅了する Daisetsuzan」

提案2 「カムイミンタラ みんなの力で未来につなぐ」

提案3 「まもり、活かし、つなげよう 世界に誇る大雪山」

#### (1)優れた価値が世界中の人々と共有された国立公園

- ○広大な原生的山岳景観、火山を基盤として広大さを形作る特徴的な地史を基にした地 形地質と、その上に大規模に広がる生物多様性を守り、大雪山国立公園の優れた価値 を未来に、後世に伝えていきます。
- ○その価値を日本国内だけでなく世界に発信し、国内外の利用者が、世界でここだけに しかない価値を理解し、体験に満足し、何度でも訪れてみたいと思う国立公園を目指 します。

#### (2) 大雪山グレードに応じた保全と利用が実現し荒廃が解消した国立公園

- ○大雪山グレードに応じた登山道の管理により登山道の荒廃が解消され、自然環境の雰囲気に合う案内板、誘導標識等が整備され、野営指定地や避難小屋においては施設の 更新と管理が行き届いた状態を目指します。
- ○また、携帯トイレの普及によりし尿の問題が解決するとともに、高山植生が保全、回 復された状態を目指します。
- ○これらの状態が実現することで、大雪山グレードに応じた体験や利用が行われ、大雪 山の原生的で雄大な山岳景観を満喫できることができます。
- ○また、登山の準備段階から入山、下山に至るまで、登山者が各施設等を通じて必要な 情報にアクセスしやすいよう工夫し、安心して利用できる状況を目指します。
- ○これらは、大雪山国立公園のおもてなし(受入れ体制強化)です。今後も登山道や施設に課題が生じても、登山道を適切に維持管理するための基盤を整えるとともに、登山者(利用者)の参画も得た維持管理を推進し、機動的に、迅速に課題が解決される体制を確保することにより、大雪山国立公園の優れた価値を体験し、感動できる国立公園を目指します。

#### (3) 質の高いエコツーリズムを核としたにぎわいが創出された国立公園

○層雲峡温泉、愛山渓温泉、旭岳温泉、天人峡温泉、白金温泉、吹上温泉、十勝岳温泉、

- トムラウシ温泉、然別湖、ぬかびら源泉郷、士幌高原などすべての利用拠点が、その 場所に滞在することを主要な目的として旅行する旅行者を増やします。
- ○そのためには、大雪山国立公園の強みである既存の資源(温泉、峡谷、湖、雪等を眺望したり体験したりできる歩道、園地、乗り物、施設等)を活用する場合であっても、新たな資源を、自然環境の価値を損なわない範囲で自然景観と調和した形で開発する場合(例えば、未整備の国立公園の利用施設計画の新たな整備)であっても、これらの資源が、世界中で大雪山国立公園でしか体験できない本物を感じるストーリーを持つようなコンテンツづくりをします。
- ○さらに、これらのコンテンツについて、SNSに発信したくなるような新たな体験の 仕方の提案、それを支える体制が整った状態を目指します。
- ○また、ネットワークを形成し、こうした体験がいつ、どこで、又はどの施設にコンタ クトを取ればできるかという情報にアクセスできる状態を目指します。
- ○これらは、いわば持続的で質の高い(満足度の高い)エコツーリズムの推進です。

#### (4) みんなが協働して管理運営する国立公園

- ○私たち(大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)構成員)は、これらの目指す姿を大雪山国立公園の利用者、関係するあらゆる人々と共有するとともに、これらの目指す姿を現実のものとしていきます。
- ○また、私たちは、地域、観光、産業の振興、自然保護などそれぞれ立場や目的が異なる団体で構成されていますが、大雪山国立公園のために自分たちができること、貢献できることを考えて実施します。また、それぞれの立場で抱える課題を、大雪山国立公園の価値を活かすことで解決し、大雪山国立公園を地域社会の課題を解決する国立公園にもしていきます。
- さらに、これらの目指す姿が実現した国立公園を地域の宝として守り、将来世代に引き継いでいきます。

9

#### 4. ビジョンの実現に向けて

#### (1) 取組の方向性と具体的取組の実施に向けて

- ○ビジョンを実現するために、項目に応じた具体的な取組をする必要があります。また、これらの取組を支えるため、国立公園に関わる多様な立場の機関、団体が参画する協働型の管理運営体制を構築する必要があります。
- ○具体的には別添のとおりであり、これらを、大雪山国立公園管理運営計画における管理運営方針、風致景観及び自然環境の保全に関する事項、適正な公園利用の推進に関する事項に反映させ、実施していく必要があります。

#### (2) ビジョン達成目標年

○2024年度の大雪山国立公園 90 周年を一つの区切りとして、国立公園に関わる多様な立場の機関、団体のそれぞれが、ビジョンに基づき自らできる取組を考え、協力して実行していきましょう。そして今から 10 年後の 2030 年を目標として大雪山国立公園のビジョンの達成状況を評価し、将来にわたって優れた国立公園の管理運営を実現していきます。

#### 別添 ビジョンを実現するための取組例

- 1. 大雪山国立公園の優れた価値の世界との共有
  - 〇一元的な情報発信(登山者向け、観光利用者向け。公園内外の連携やプロモーション の促進を含む)
- 2. 大雪山グレードに応じた保全と利用の実現と荒廃の解消
  - 〇適切な歩道維持管理のための基盤形成(未執行区間、課題のある区間段階的解消、最終的な全区間適正化等)
  - ○大雪山グレードに応じた歩道の補修等維持管理の促進
  - 〇歩道関連施設の整備、更新
  - ○歩道の適正利用(大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言を含む。)
  - ○利用者負担、民間資金活用、利用者参加の仕組み検討
  - 〇外国人対応の充実
- 3. 質の高いエコツーリズムを核としたにぎわいの創出
  - 〇エコツーリズムによる資源の活用
  - 〇利用可能な資源の発掘、整備 (ワイズユースの範囲内)
  - ○利用拠点の満足度向上
  - 〇安心・安全の確保
  - 〇外国人対応の充実【再掲】
- 4. みんなの協働による管理運営
- (1)総合型協議会の構築と維持
  - ※構成員の本業で国立公園に貢献する視点を付加
  - ※モデル的な事例づくりと国立公園外(関係10市町の国立公園区域外)への普及
- (2)調査・研究の推進とデータの活用
- (3) 大雪山国立公園の管理有効性評価の実施

## 別添 参考資料

- 〇大雪山グレード (利用体験ランク、保全対策ランク) (説明資料、図)
- ○国立公園事業の執行状況
- 〇大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言
- 〇大雪山国立公園利用者数、各利用拠点利用者数
- 〇大雪山国立公園登山者数の変化
- ○気候変動による将来予測(紅葉最盛日、年間降水量、高山植物生息適地の変化)

## 大雪山国立公園ビジョン

## 

## 大雪山国立公園の優れた価値と歩み

#### ○優れた価値

日本でここだけにしかない 広大で原生的な山岳景観



高い生物多様性 高山植物、高山蝶、ヒグマ等大型哺乳類等) 多様な景観要素







#### ○これまでの歩み

調査研究や保護の先見の明

- · 需山碧水国立公園建白書
- ・大雪山調査会による学術研究と活用

大規模開発と 自然保護の調整

価値を損なわない範囲での 持続可能な利用がテーマへ





○人口減少と高齢化 ライフスタイルの変化、 価値観の多様化

#### ○外国人利用者の増加



写直

#### ○登山道を中心とした山岳地域の荒廃



現状と課題

紅葉色づきの低下

○気候変動

ササの増加

隆水量の増加







施設の老朽化

#### ○利用拠点の低迷

廃屋などにぎわいのない空間 資源の発掘、評価、 ストーリー化が不十分 情報発信不足(特に対外国人)

写真

世界に誇る山岳国立公園にするために!

## 大雪山国立公園の目指す姿

## |①優れた価値が世界中の人々と共有された国立公園

- ○大雪山国立公園の優れた価値を守り、世界に発信。
- →世界でここだけの体験ができ、何度も訪れたいと感じる国立公園へ。

#### <取組例>

○一元的な情報発信

写直

## ②大雪山グレードに応じた保全と利用が実現し荒廃が解消した国立公園

- ○大雪山グレードに応じた登山道管理による荒廃の解消 (案内板、誘導標識、野営指定地や避難小屋の更新・管理を含む)
- ○携帯トイレの普及によるし尿問題の解決。高山植生の保全、回復。
- ○各施設等を通じた必要な情報へのアクセス確保。安心できる登山利用。
- →大雪山の原生的で雄大な山岳景観を満喫できるおもてなし・受入れ体制強化。

#### <取組例>

- ○適切な歩道維持管理のため の基盤形成、補修推進
- ○携帯トイレ普及宣言推進
- ○管理運営への利用者参加



## ③質の高いエコツーリズムを核としたにぎわいが創出された国立公園

- ○各利用拠点の資源を、ここにしかない本物を感じるストーリーを持つコンテンツに進化。
- ○ストーリを体感できる体験の提供、体験するための情報へのアクセスを確保。
- →すべての利用拠点の旅行目的地化。持続的で質の高い(満足度の高い)エコツーリズムの推進。

#### <取組例>

- ○エコツーリズムによる 資源の活用
- ○外国人対応の充実



## ④みんなが協働して管理運営する国立公園

- │○ビジョンの共有、それぞれができることを実施
- →国立公園を地域の宝として守り将来世代へ引継ぐ。

大雪山国立公園90周年(2024年度)に向けて取組加速 10年後、2030年にビジョン達成状況の評価

### 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けて

## 1. 大雪山国立公園の現状と課題

- (1) 大雪山国立公園に影響を与える自然的・社会的環境
  - 1) 気候変動
  - 2) 人口減少と高齢化、ライフスタイルの変化、価値観の多様化
  - 3) 外国人利用者の増加
- (2) 大雪山国立公園の課題
  - 1)登山道を中心とした山岳地域の荒廃
  - 2) 利用拠点の低迷

## 2. 大雪山国立公園の目指す姿

- (1) 大雪山国立公園の優れた価値の世界との共有
- (2) 大雪山グレードに応じた保全と利用の実現と荒廃の解消
- (3) 質の高いエコツーリズムを核としたにぎわいの創出

## 3. 国立公園の協働型管理運営体制の構築

- 〇協働型管理運営を進めるため各国立公園で「総合型協議会」 (環境省以外の国の機関、自治体、民間団体、公園事業者等 多様な主体が参加する協議会)の設置が求められる。
- 〇総合型協議会では、「公園全体のビジョン」、「管理運営方針」、 「行動計画」を定めることとされている。

※『国立公園における協働型管理運営の推進の手引き』(平成27年3月、環境省自然環境局国立公園課)に基づく。

## 4. 目指す姿を実現するための体制(案)

- 〇現在の大雪山国立公園連絡協議会を拡充し、総合型連絡協議 会として位置付け(課題解決のための計画、方針作り)。
- 〇総合型協議会の下に地域別に、登山道維持管理部会を設置(登山道の維持管理のための合意形成、総合調整)。
- 〇大雪山全体を活動範囲とし、かつ民間資金の受け皿となるような公園管理のための民間団体の育成を目指す。

## <参考資料> 大雪山国立公園の管理運営体制の現状

## 大雪山国立公園の管理運営体制の現状

#### 東大雪地域 表大雪地域 ※国立公園計画策定委員会 管理運 大雪山国立公園連絡協議会 ※登山道管理水準検討会 営全般 (非常設、必要な時に設置) 構成:地方公共団体、環境省地方環境事務所 事務局:環境省自然保護官事務所 表大雪地域登山道関係者情報交換会 東大雪地域登山道関係者情報交換会 登山道 構成:幅広い関係者、地方公共団体、森林管理署、自然保護官事務所 事務局:自然保護官事務所 然別自然休養林 上川地区登山道等 新得地区登山道等 保護管理協議会 維持管理連絡協議会 維持管理連絡協議会 構成:上川町、北海道、森林管理署、 構成:鹿追町、士幌町、上士 構成:新得町、北海道、森林管理署、 幌町、北海道、森林管理署、 自然保護官事務所、観光協会、山岳 自然保護官事務所(賛助会員として山 自然保護官事務所、警察署、 会、民間事業者 事務局:上川町 東川町大雪山 岳会等) 事務局:新得町 観光協会、民間事業者 国立公園保護協会 事務局:鹿追町 構成:東川町、北海道、森林管 山岳トイレ環境対策部会 美瑛富士トイ 理署、自然保護官事務所、観光 (南沼汚名返上プロジェクト) レ管理連絡会 協会、山岳会、中学校、民間事 業者 事務局:東川町 構成:山のトイレを考える会、道内山 エコツー 上川町エコツーリズム 東川町エコツーリズム 岳団体(9団体) リズム 事務局:山のトイレを考える会 推進協議会準備会 推進協議会 構成:東川町、観光協会、商工会 事務局:東川町 ふれあい 層雲峡自然ふれあい ひがし大雪自然館 利用協議会(層雲峡 V C) 運営協議会 施設 個別課題 国立公園と国有林の連携推進会議

大雪高原温泉銀泉台 自動車利用適正化協議会

大雪高原温泉地区 ヒグマ対策連絡会議

表大雪地域スノーモビル規制調整会議

東大雪地域スノーモビル規制調整会議

十勝岳山麓ジオパーク推進協議会

とかち鹿追ジオパーク推進協議会

## 大雪山国立公園における新たな協働管理運営体制(案)

#### **<ポイント>**

- ①現在の大雪山国立公園連絡協議会のメンバーを拡充し、総合型協議会として位置づけ(大雪山国立公園のビジョンや課題解決のための方針や計画について関係者で協議)。
- ②総合型協議会の下に地域別に登山道維持管理部会を設置する(登山道等の維持管理のための調整や合意形成)。
- ③大雪山全体を活動範囲とし、かつ民間資金の受け皿となるような公園管理のための民間団体の育成を目指す。

#### 大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)

\*大雪山の場合ステークホルダーが多いので、例えば「宿泊施設の意向に ついては観光協会が代表する」などの関係者間の関係を明らかにする。

\*士幌、上士幌、鹿追、新得の観光協会は役場に同じ

・外国人登山者の適切な利用促進に向けた活動

<役割> ・国立公園のビジョン作成

国立公園の利活用や保全上の課題の解決についての方針・計画作り

<メンバー> ・環境省、北海道、1市9町(上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、富良野市、南富良野町、新得町、鹿追町、士幌町、上士幌町)

·関係行政機関(上川中部森林管理署、上川南部森林管理署、十勝西部森林管理署東大雪支署、北海道開発局、北海道運輸局)

・観光関係者(ふらの、層雲峡、ひがしかわ、美瑛、かみふらの十勝岳、南富良野まちづくり各観光協会)

・ロープウエイ事業者 ・バス事業者 ・国立公園管理の中核を担う民間団体

•自然保護団体 ・ビジターセンター関係者 ·登山道維持管理部会参加者(代表)

<協議課題> ①国立公園のビジョン、利活用、課題解決のための方針・計画づくり

「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」パートナーシップ事業開始(2018年目標)

「大雪山国立公園ビジョン」の作成(2020年公表目標)

・山岳地域の上質な空間の保全(大雪山縦走路の活用) ・利用可能な資源の開拓、高付加価値のツーリズムの展開

・公園内外の連携、プロモーション促進(ターゲットとそれに応じた利用メニュー開発)

└ •利用者負担(協力金)のあり方検討

「大雪山国立公園管理運営計画」策定(2020年作成目標)

「大雪山国立公園登山道管理水準」改訂(2021年作成目標)

「大雪山国立公園における登山道整備技術指針」改訂(2021年作成目標)

②登山道維持管理部会の設置

③情報の一元化と情報発信(民間団体が育成されるまでの当分の間)

<予 算> 1市9町からの負担金(従前の大雪山国立公園連絡協議会の負担金の金額を変更せずに継続)

〈事務局〉 環境省(業務の一部を民間団体に請負)

必要に応じた作業部会

<役割> 方針・計画づくりに関する実 質的な議論

<メンバー> 総合型協議会メンバーから 手上げ方式により選出

\*議論の内容によってはメンバー外の出席を 求め、意見を聴くことができる。

<事務局>環境省

取組結果報告

部会設置・検討指示

#### 表大雪登山道維持管理部会(※)

<役割>

登山道等の維持管理活動に関する総合調整と合意形成

**<メンバー>** •国立公園制度:環境省 •土地所有者:森林管理署、北海道

·歩道事業執行者·関係市町:北海道、1市5町(上川町、東川町、美瑛町、 上富良野町、富良野市、南富良野町)、りんゆう観光

・国立公園管理の中核を担う民間団体

•山岳会関係者 ガイド事業者 ・ビジターセンター関係者

・保全活動団体(パークボランティア等)・整備の専門家

•研究者、自然保護団体 等

<活動内容> ①維持管理活動の PDCA サイクル実施と検証

・歩道等維持管理実施手順マニュアルに基づく関係者間の調整、作業結果の検討

・活動の広報、人材育成(セミナー、ボランティア受入)、技術の蓄積と伝承

②登山道等維持管理の適正化に向けた議論

・歩道事業未執行区間の解消

施設の老朽化対策

<事務局>環境省(業務の一部を民間団体に請負)

#### 東大雪登山道維持管理部会(※)

<役割>

**<メンバー>** 左の中で東大雪に関わる者と関係4町

(新得町、鹿追町、士幌町、上士幌町)

<活動内容> 同左

<事務局> 同左

## 公園管理のための民間団体(想定)

<役割(想定)>

<幹事会>

担当者による

連絡調整

利用拠点の活性化

- 大雪山全体を民間側で代表
- ・民間資金の受け皿
- 情報の一元化と発信
- <活動内容(想定)>
- (1)自主事業
- 情報の一元化と情報発信及びホームページ管理 ・ボランティアのコーディネート
- ・シンポジューム開催
- ・登山道の維持管理(管理者と協定を結ぶ)
- ②民間資金の調達
- ③請負業務
  - ·各種事務局業務(総合型協議会·登山道部会)
  - ・行政機関の管理・調査業務(登山道巡視、補修、施設の修理)

\*将来的に公園管理団体を目指す

- \*総合型協議会で大雪山全体を民間側で代表するという共通認識を醸成していく
- \*事務局を担える人材を育成するところから始める

(※)総合型協議会とは独立並行して準備を進め、両方が成立した時点で協議会とその部会との関係になることも想定。 個別の事業者は各立場を代表する団体に出席をゆだね、オブザーバーとなるように推奨。

大雪山国立公園連絡協議会 メンバー案

大雪山国立公園連絡協	議会 メンバー案
	組織名•役職名
	環境省北海道地方環境事務所長
	北海道上川総合振興局長
	北海道十勝総合振興局長
	富良野市長
	上川町長
	東川町長
	美瑛町長
	上富良野町長
  関係行政機関	南富良野町長
	士幌町長
	上士幌町長
	鹿追町長
	新得町長
	上川中部森林管理署長
	上川南部森林管理署長
	十勝西部森林管理署東大雪支署長
	十勝西部森林管理署東大雪支署長 北海道開発局開発監理部開発連携推進課長
	北海道運輸局観光部長
	層雲峡観光協会
	(一社)ひがしかわ観光協会
  観光協会	(一社)美瑛町観光協会
	(一社)かみふらの十勝岳観光協会
	(一社)ふらの観光協会
	NPO法人南富良野まちづくり観光協会
	(株)りんゆう観光
	ワカサリゾート(株)
文通事業者 交通事業者	道北バス(株)
人起事不占	旭川電気軌道(株)
	十勝バス(株)
	北海道拓殖バス(株)
公園管理団体等	国立公園管理の中核を担う民間団体
自然保護団体	大雪と石狩の自然を守る会
- WELLS - II.	十勝自然保護協会
研究者	各個別研究者
ビジターセンター運営協議	層雲峡地区自然ふれあい利用協議会
会	ひがし大雪自然館運営協議会
<u> </u>	(東川のビジターセンターの協議会)

#### 表大雪登山道維持管理部会 メンバー案

表入当登	山道維持管理部		ш.т.
	分野	組織名	備考
	国立公園制度所管	環境省北海道地方環境事務所	事務局
	土地所有者	上川中部森林管理署	
		上川南部森林管理署	
		北海道上川総合振興局 南部森林室	
		北海道上川総合振興局 環境生活課	
		富良野市	
1		上川町	
1	関係自治体	東川町	
		美瑛町	
		上富良野町	
		南富良野町	
<i></i>		環境省北海道地方環境事務所【再掲】	
管理·運		北海道上川総合振興局 環境生活課【再掲】	
営		■管理委託:(有)風の便り工房	
		■ 置往安む:(円/風の)とり上房 ■巡視委託:NPO法人かむい(上川地区登山道維持管理連絡協議会経由	1)
	国立公園事業執行	■ © 代 委 記・N F O 仏 入 が 心 じ ( 工 川 地 区 壹 田 道 稚 行 官 垤 建 希 励 議 云 程 臣 ■ 管 理 委 託 : 大 雪 山 自 然 学 校 (東川町、大雪山国立公園東川町自然保護協議会経由)	
	者	■ 官 任 安 託 : 入 当 山 日 杰 子 校 (東川崎、大雪山国立公園東川崎 目然保護協議会経由) 上 川 中 部 森 林 管 理 署 【 再 掲 】	
	(歩道事業)	上川中市林州官理者【冉恂】   上川町「市根】	
		上川町【再掲】	
		東川町【再掲】	
		上富良野町【再掲】要確認26,27執行	
		(株)りんゆう観光	
		(株)りんゆう観光【再掲】	
	者	ワカサリゾート株式会社	
	公園管理団体等	国立公園管理の中核を担う民間団体【未定】	
	五图自在团体分		
		渡邉悌二(北海道大学大学院地球環境科学研究院)	大雪山における登山道管理
維持管	整備専門家	佐藤文彦(有限会社風の便り工房)	水準等検討会 技術指針作
		岡崎哲三(合同会社北海道山岳整備)	業部会委員
理・利用	保全活動団体(行政	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	
指導に関		大雪地区自然公園指導員連絡会	
する民間・		大雪山·山守隊	
参画	休主活動凹体(氏   問)	大雪山自然学校【再掲】	
		NPO法人 ezorock	
	ビジターセンター運	層雲峡地区自然ふれあい利用協議会(層雲峡ビジターセンター)	
	営協議会等	旭岳ビジターセンター	
l 1	口加州五寸	旭川山岳会	
	山岳会	上川山岳会	
		富良野山岳会	
		国民打山市会   上富良野十勝岳山岳会	
		工量及到  勝古山市云   美瑛山岳会	
[ ]		7777	
		日本山岳会北海道支部	
[ ]		勤労者山岳連盟(道央地区)	
		旭川勤労者山岳会	
利用・環		北海道山岳ガイド協会表大雪地区連絡室	
境教育		北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡室	
[ ]		山楽舎BEAR	
		ガイドオフィス風	
		山岳ガイド池永氏	
	ガイド等事業者	大雪山倶楽部	
]	カコンサ 本本日	NPOかむい【再掲】	
		TREE LIFE	
]		NPOアースウィンド	
		ガイドの山小屋	
		東川エコツーリズム推進協議会	
		有限会社アグリテック	
		大雪と石狩の自然を守る会	
保護·保全	自然保護団体	北海道高山植物ネット	
M XII/N		山のトイレを考える会	
· · ·		山岳レクリエーション管理研究会	
調査研究		四番レフリエーフョン自座研究会  各個別研究者	
		在心が引入名	

<オブザーバー>

今後、各分野の立場を代表しない、個別の事業者、団体、組織又は、該当分野以外で大雪山国立公園の登山道の維持管理 に関心を有する者が参加する場合は、オブザーバーとして参加。

現時点でメンバーになっている個別の事業者、団体、組織は、できる限り、各立場を代表する団体に出席をゆだね、オブザーバーとなるように推奨し、登山道維持管理部会のスリム化を図り、議論が円滑に進むことを目指す。

#### 東大雪登山道維持管理部会 メンバー案

水八ヨ豆	山坦維持官理部:		1 44 4
		組織名	備考
		環境省北海道地方環境事務所	事務局
	土地所有者	十勝西部森林管理署東大雪支署	
		北海道十勝総合振興局 環境生活課	
	関係自治体	士幌町	
		上士幌町	
		鹿追町	
管理•運		新得町	
営		環境省北海道地方環境事務所【再掲】	
	国立公園事業執行	■巡視委託:新得山岳会	
	者	北海道十勝総合振興局 環境生活課【再掲】	
	(歩道事業)	■管理委託:新得山岳会【再掲】	
		十勝西部森林管理署東大雪支署【再掲】	
	八国体四口人体		
	公園管理団体等	国立公園管理の中核を担う民間団体【未定】	
	整備専門家	渡邉悌二(北海道大学大学院地球環境科学研究院)	大雪山における登山道管
維持管		佐藤文彦(有限会社風の便り工房)	理水準等検討会 技術指
理•利用		岡崎哲三(合同会社北海道山岳整備)	<b>一</b> 針作業部会委員
指導に関	保全活動団体(行政	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	
する民間	制度に基づくもの)	大雪地区自然公園指導員連絡会	
参画	保全活動団体(民	大雪山·山守隊	
	間)	しほろ自然環境に親しむ会	
	ビジターセンター運	  ひがし大雪自然館運営協議会(事務局:上士幌町【再掲】)	
	営協議会等		
		十勝山岳連盟	
	山岳会	新得山岳会【再掲】	
利用∙環		日本山岳会北海道支部	
境教育		北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室	
		NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター	
	ガイド等事業者	然別湖ネイチャーセンター	
		ボレアルフォレスト	
		山楽舎BEAR	
保護•保全	自然保護団体	山のトイレを考える会	
調査研究	研究者	各個別研究者	

#### <オブザーバー>

今後、各分野の立場を代表しない、個別の事業者、団体、組織又は、該当分野以外で大雪山国立公園の登山道の維持管理に関心を有する者が参加する場合は、オブザーバーとして参加。

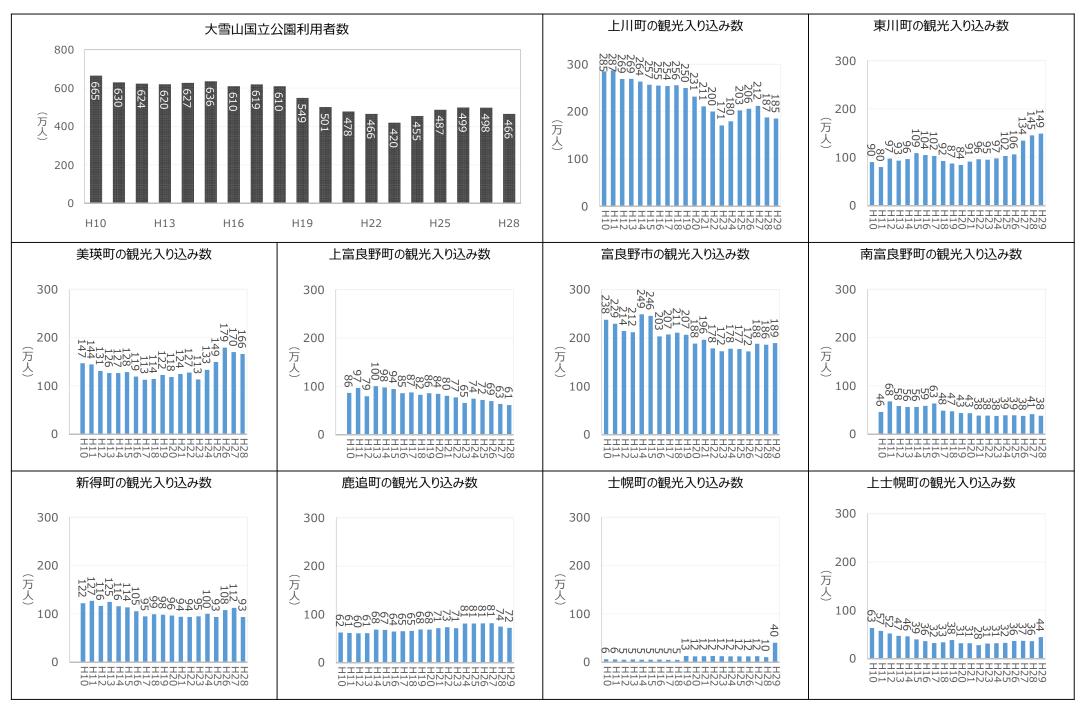
現時点でメンバーになっている個別の事業者、団体、組織は、できる限り、各立場を代表する団体に出席をゆだね、オブザーバーとなるように推奨し、登山道維持管理部会のスリム化を図り、議論が円滑に進むことを目指す。

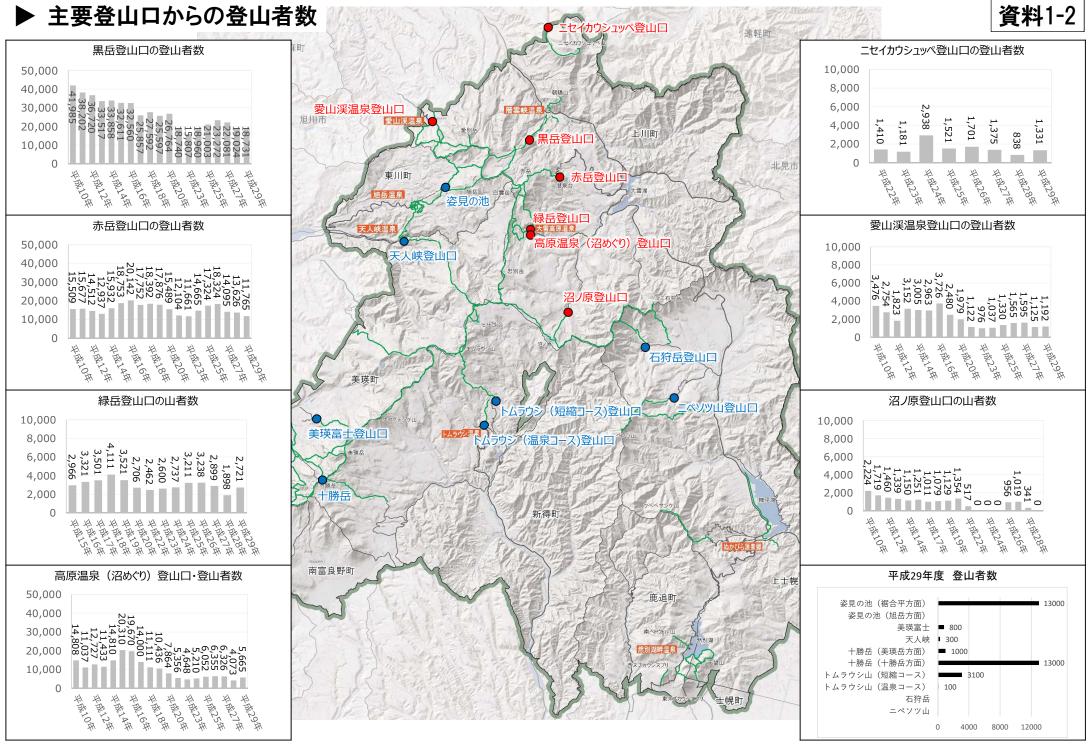
# 大雪山国立公園ビジョン作成に関する 参考資料集

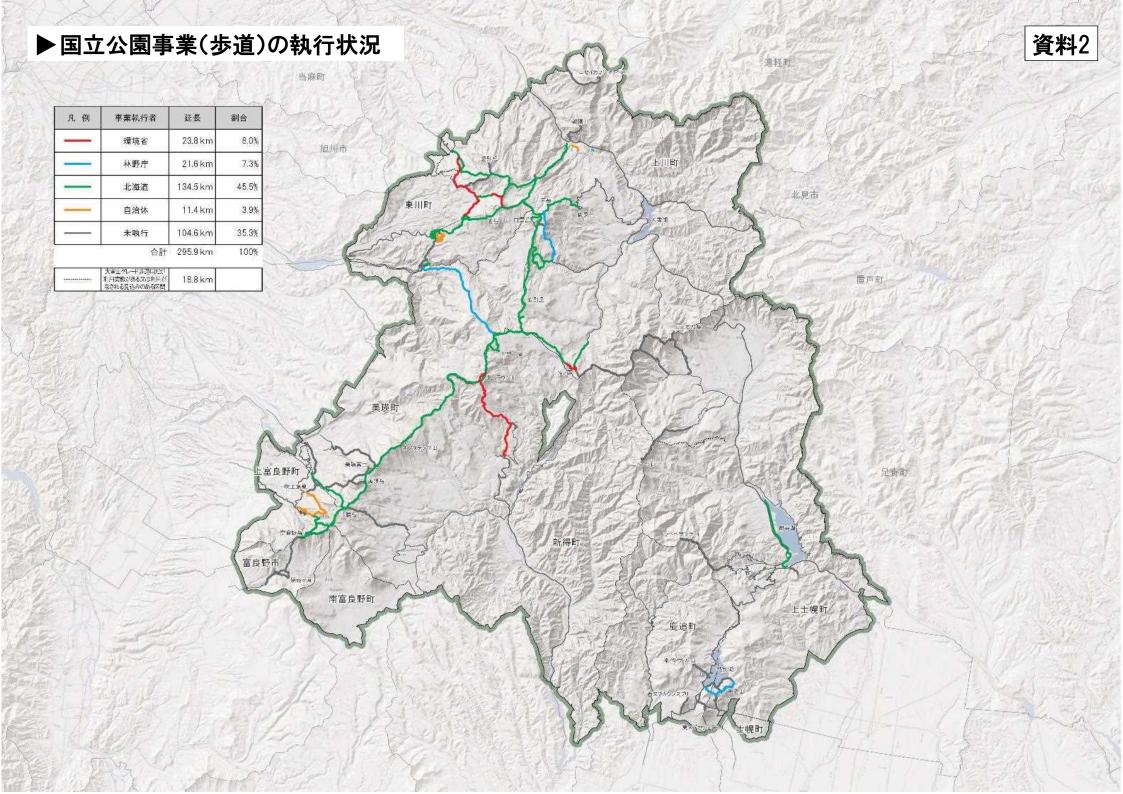
#### (作成中)

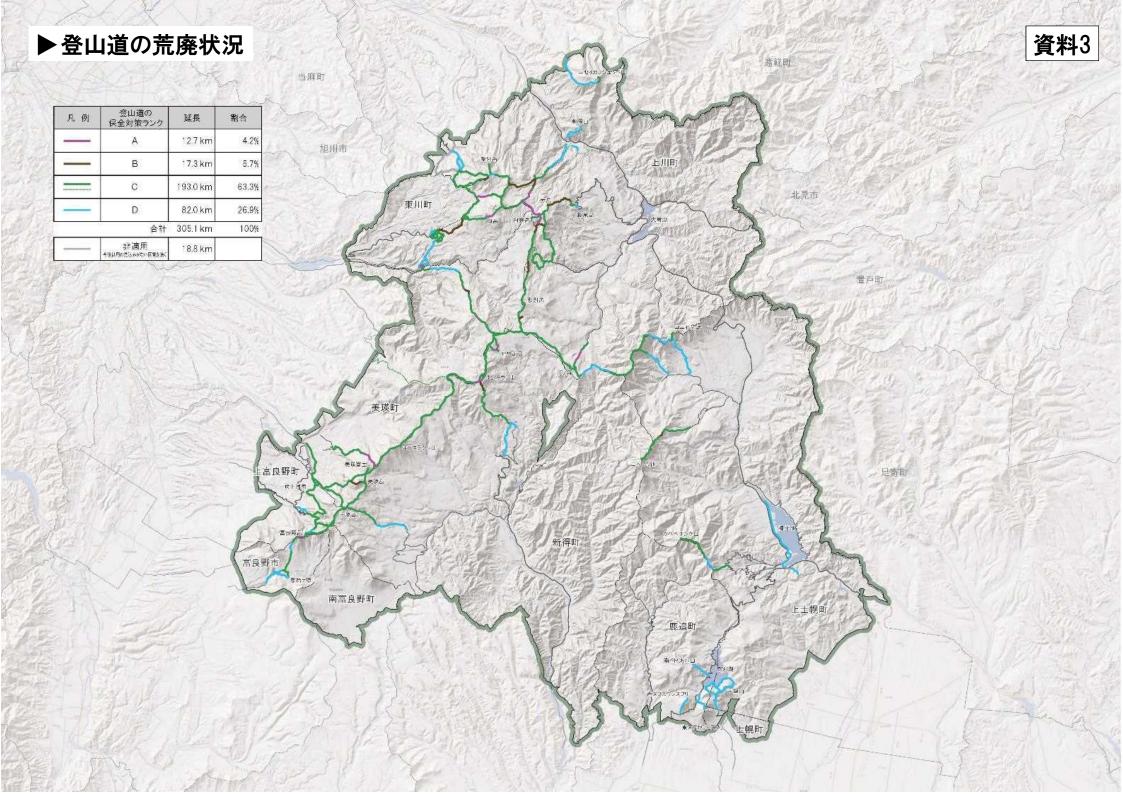
資料 1	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	医利用夹粉	<b>主西及山口。</b>	からの登山者数
<b>1 1 1</b>			+ +	いりひついつ

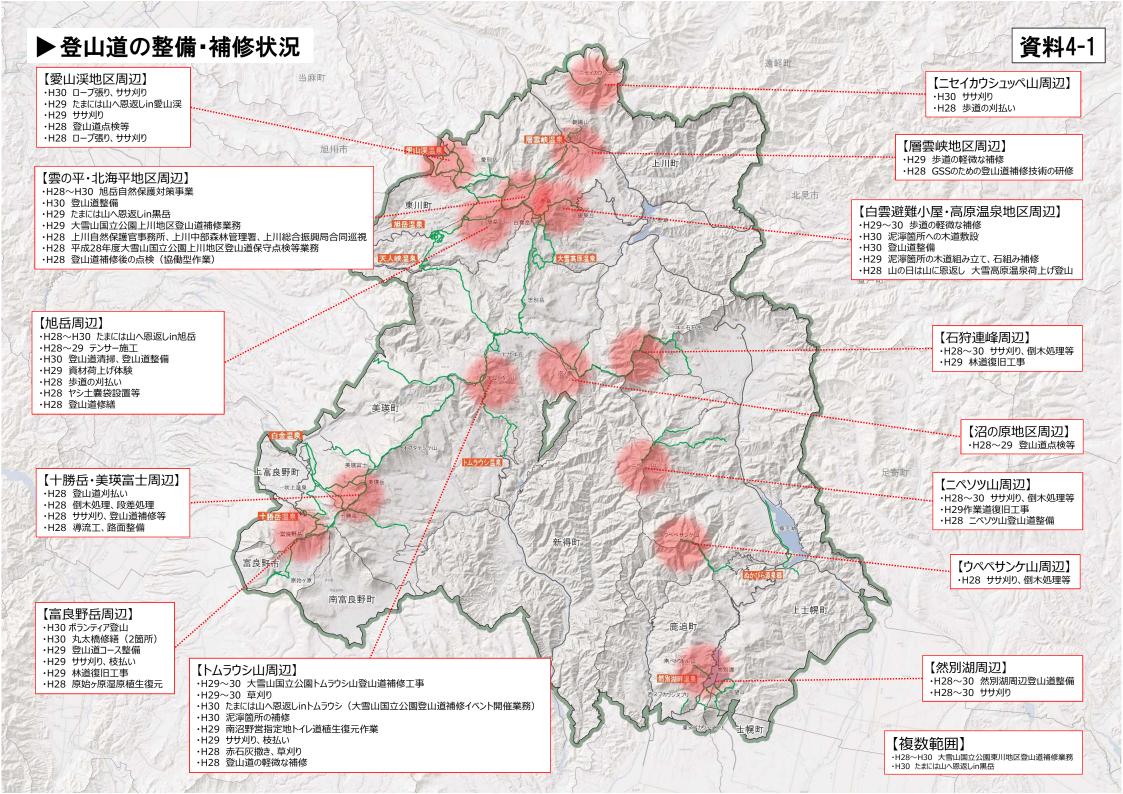
- 資料2 国立公園事業(歩道)の執行状況
- 資料3 登山道の荒廃状況
- 資料4 登山道の補修・整備状況
- 資料 5 避難小屋等施設の整備状況
- 資料6 し尿問題とその対応
- 資料7 公園利用において想定されるリスク
- 資料8 利用拠点の利用者数
- 資料 9 大雪山国立公園関係市町の人口予測
- 資料 10 大雪山国立公園連絡協議会の経緯
- 資料 11 登山道関係者による情報交換会の経緯











# ▶登山道の整備・補修状況の詳細

### 平成30年度

登山道作業、活動内容	主催	場所	資料4-1での区分
たまには山へ恩返しin旭岳	上川総合振興局、一般社団法人、 大雪山山守隊、大雪山国立公園連 絡協議会	中岳裾合平線、東川町森林 体験研修センター	旭岳周辺
たまには山へ恩返しin黒岳	上川総合振興局、一般社団法人、 大雪山山守隊	黒岳、雲の平	複数範囲
平成30年度大雪山国立公園東川地区登山 道補修業務	合同会社北海道山岳整備	沼J平姿見の池線道路(歩道)、層雲峡勇駒別線道路 (歩道)、中岳裾合平線道路 (歩道)	複数範囲
ボランティア登山	上富良野町 協力:上富良野十勝岳山岳会、上 富良野高校、十勝岳ジオパークの会	富良野岳カミホロカメットク山線	富良野岳周辺
たまには山へ恩返しinトムラウシ(平成30年度 大雪山国立公園登山道補修イベント開催業 務)	北海道地方環境事務所 一般社団法人、大雪山山守隊 (請 負者でもある) 協力:新得山岳会、新得町	トムラウシ山	トムラウシ山周辺
平成30年度大雪山国立公園トムラウシ山登山道補修工事	北海道地方環境事務所(請負者:合同会社北海道山岳整備)	トムラウシ山	トムラウシ山周辺
然別湖周辺登山道整備	然別自然休養林保護管理協議会 参加:ボレアルフォレスト	然別湖外輪山(東雲湖、南 ペトウトル山、白雲山、東ヌプカ ウシヌブリ)	然別湖周辺
טוא <del>טע</del>	NPO法人かむい	ニセイカウシュッペ山、朝陽山	ニセイカウシュッペ山周辺
泥濘箇所への木道敷設	(有)風の便り工房	高原温泉~緑沼	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
歩道の軽微な補修	上川中部森林管理署	高原温泉~緑岳	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
登山道整備	NPO法人かむい	赤岳周辺	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
登山道整備	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	旭岳9合目~中岳分岐	雲ノ平、北海平地区周辺
旭岳自然保護対策事業	東川町大雪山国立公園保護協会、 NPO法人大雪山自然学校	旭岳周辺	雲ノ平、北海平地区周辺
ローブ張り、ササ刈り	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	六の沼周辺、永山岳方面	愛山渓地区周辺
登山道清掃、登山道整備	東川町、東川町大雪山国立公園愛護少年団	旭岳登山道	旭岳周辺
丸太橋修繕(2箇所)	富良野市	原始ヶ原沢コース	富良野岳周辺
ササ刈り、倒木処理等	上士幌町、ひがし大雪自然ガイドセン ター	幌加温泉登山口~前天狗南 分岐	ニペソツ山周辺
ササ刈り、倒木処理等	上士幌町、ひがし大雪自然ガイドセン ター	ユニ石狩岳三股登山口〜シュ ナイダー登山口	石狩連峰周辺
פוא <del>ליל</del>	しほろ自然環境に親しむ会	白雲山士幌高原コース	然別湖周辺
泥濘箇所の補修	上士幌自然保護官事務所	短縮コース登山口〜トムラウシ 分岐〜トムラウシ温泉登山口	トムラウシ山周辺
草刈り	新得町	短縮コース登山口〜トムラウシ 分岐〜トムラウシ温泉登山口	トムラウシ山周辺

### 平成29年度

登山道作業、活動内容	主催	場所	資料4-1での区分
		東川町第一コミューティーセン,	旭岳周辺
たまには山へ恩返しin黒岳	上川総合振興局	雲の平	雲ノ平、北海平地区周辺

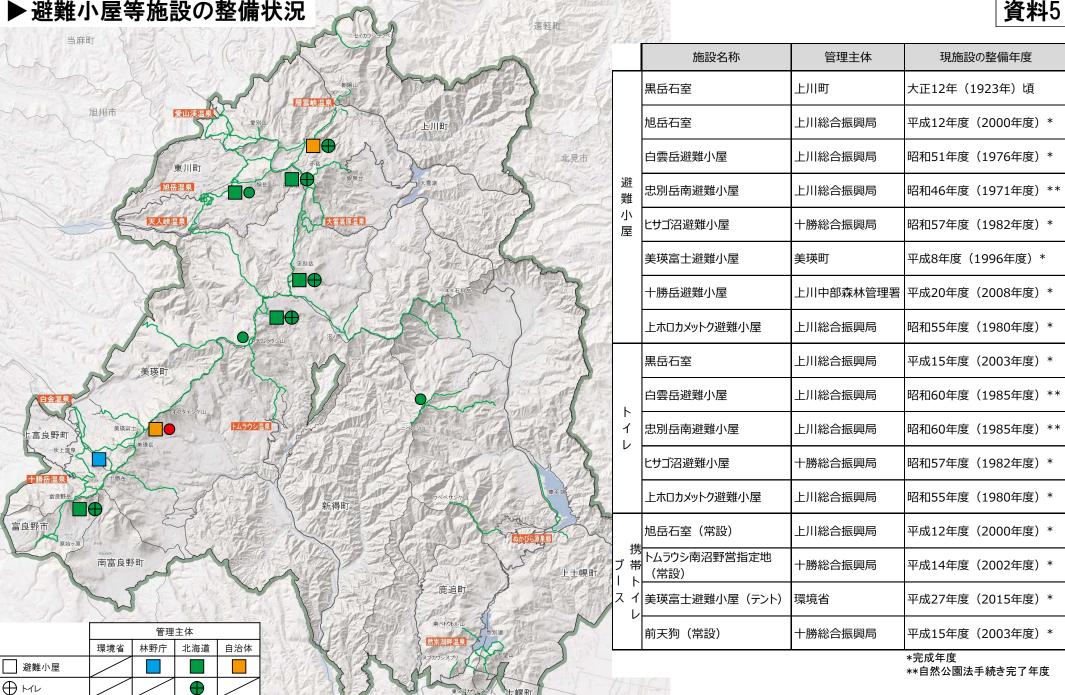
たまには山へ恩返しin愛山渓	LIII立然担発党事務で	愛山渓三十三曲がり	T
たまには山へ忠炫UIN変山法	上川自然保護官事務所 協力:大雪山国立公園連絡協議 会	変山沃二十二曲かり	愛山渓地区周辺
平成29年度大雪山国立公園上川地区登山 道補修業務	合同会社北海道山岳整備	沼ノ平姿見の池線道路(歩 道)	雲ノ平、北海平地区周辺
平成29年度大雪山国立公園東川地区登山 道補修業務	合同会社北海道山岳整備	沼J平姿見の池線道路(歩道)、層雲峡勇駒別線道路 (歩道)、中岳裾合平線道路 (歩道)	複数範囲
テンサー施工	東川自然保護官事務所 協力:上川総合振興局環境生活 課	中岳裾合平線道路(歩道)	旭岳周辺
平成29年度大雪山国立公園トムラウシ山登 山道補修工事	北海道地方環境事務所(請負者:合同会社北海道山岳整備)	トムラウシ山	トムラウシ山周辺
南沼野営指定地トイレ道植生復元作業	十勝総合振興局	トムラウシ南沼野営指定地	トムラウシ山周辺
然別湖周辺登山道整備	然別自然休養林保護管理協議会	然別湖外輪山	然別湖周辺
登山道点検等	上川自然保護官事務所、北海道山 岳整備	沼ノ原北東側急勾配区間	沼ノ原地区周辺
歩道の軽微な補修	上川中部森林管理署	黒岳	層雲峡地区周辺
歩道の軽微な補修	上川中部森林管理署	赤岳、緑岳	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
泥濘箇所の木道組み立て、石組み補修	上川総合振興局、上川町、(有) 風の便り工房	高原温泉沼巡りコース	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
פוא <del>טע</del>	大雪山国立公園パークボランティア連 絡会	永山岳方面	愛山渓地区周辺
旭岳自然保護対策事業	東川町大雪山国立公園保護協会、 NPO法人大雪山自然学校	旭岳周辺	雲ノ平、北海平地区周辺
資材荷上げ体験	上川総合振興局	裾合平	旭岳周辺
登山道コース整備	富良野山岳会	原始ヶ原	富良野岳周辺
ササ刈り、倒木処理等	上士幌町、ひがし大雪自然ガイドセン ター	幌加温泉登山口~前天狗南 分岐	ニペソツ山周辺
作業道復旧工事	十勝西部森林管理署東大雪支署	幌加温泉登山口	ニペソツ山周辺
ササ刈り、枝払い	上士幌自然保護官事務所	シュナイダー登山口〜シュナイ ダーの肩	石狩連峰周辺
ササ刈り、倒木処理等	上士幌町、ひがし大雪自然ガイドセン ユニ石狩岳三股登山口~十 ター 石狩連峰周辺		石狩連峰周辺
林道復旧工事	十勝西部森林管理署東大雪支署	音更川本流林道	石狩連峰周辺
ササ刈り、倒木処理等	然別自然休養林保護管理協議会、 ボレアルフォレスト	東雲湖、南ペトウトル山、白雲 山、東ヌプカウシヌブリ等	然別湖周辺
ササ刈り	しほろ自然環境に親しむ会	白雲山士幌高原コース	然別湖周辺
草刈り	新得町	南沼〜短縮コース登山口〜ト ムラウシ温泉登山口	トムラウシ山周辺
ササ刈り、枝払い	上士幌自然保護官事務所	三川台~南沼	トムラウシ山周辺
ササ刈り、枝払い	上士幌自然保護官事務所	十勝岳新得コース	富良野岳周辺
林道復旧工事	十勝西部森林管理署東大雪支署	十勝岳新得登山口	富良野岳周辺

# ▶登山道の整備・補修状況の詳細

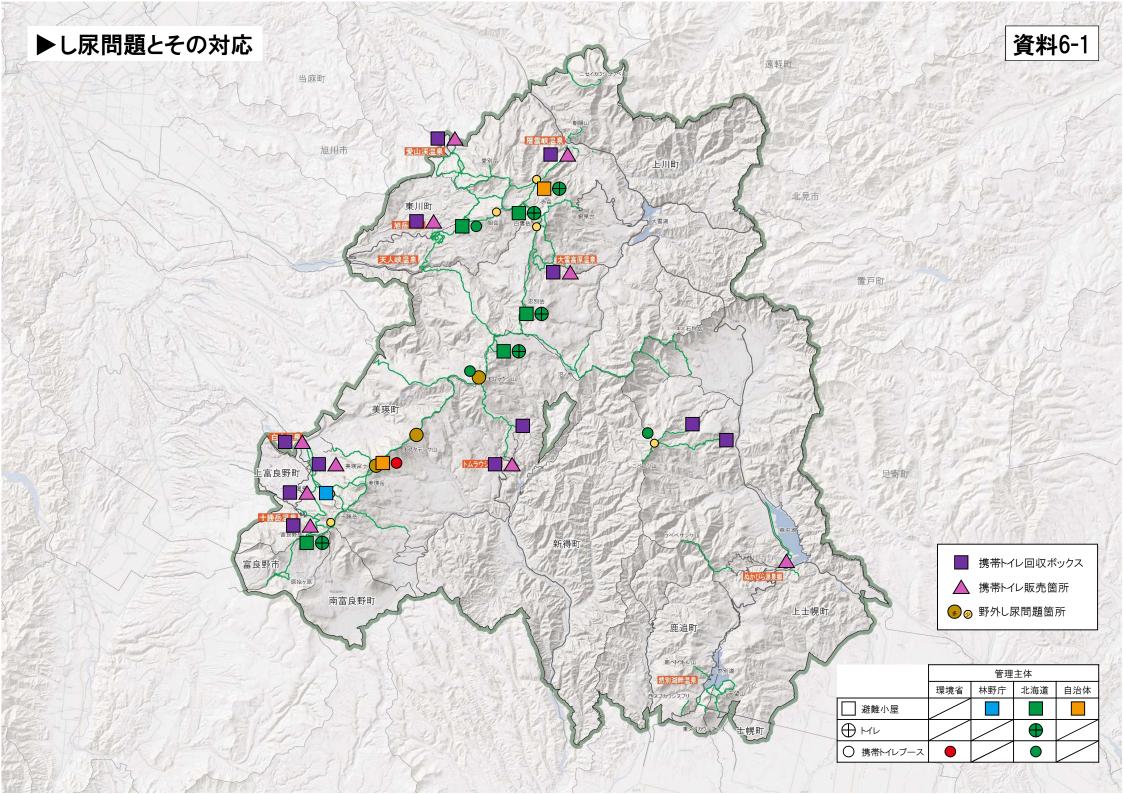
### 平成28年度

たまには山へ恩返しin旭岳 山の日は山に恩返し 大雪高原温泉荷上げ登山 GSSのための登山道補修技術の研修 GSSのための登山道補修技術の研修 上川自然保護官事務所、上川中部森林管理署、上川総合振興局合同巡視 平成28年度大雪山国立公園上川地区登山道保守点検等業務	主催 上川総合振興局、山樂舎BEAR、大雪山国立公園連絡協議会 上川地区登山道維持管理連絡協議会,上川自然保護官事務所、上川総合振興局、上川中部森林管理署 上川自然保護官事務所 上川自然保護官事務所 上川自然保護官事務所、上川総合振興局、上川中部森林管理署	東川町森林体験研修センター 大雪高原温泉沼巡りコース 黒岳 7 合目 黒岳石室~赤石川間登山道	資料4-1での区分 旭岳周辺 白雲避難小屋、高原温泉地区周辺 層雲峡地区周辺
山の日は山に恩返し 大雪高原温泉荷上げ登山 GSSのための登山道補修技術の研修 GSSのための登山道補修技術の研修 上川自然保護官事務所、上川中部森林管理 署、上川総合振興局合同巡視 平成28年度大雪山国立公園上川地区登山 道保守点検等業務	雪山国立公園連絡協議会 上川地区登山道維持管理連絡協議会、上川自然保護官事務所、上 川総合振興局、上川中部森林管理 署 上川自然保護官事務所 上川自然保護官事務所 上川自然保護官事務所、上川総合	東川町森林体験研修センター 大雪高原温泉沼巡りコース 黒岳 7 合目 黒岳石室~赤石川間登山道	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
山 GSSのための登山道補修技術の研修 GSSのための登山道補修技術の研修 GSSのための登山道補修技術の研修 上川自然保護官事務所、上川中部森林管理 署、上川総合振興局合同巡視 平成28年度大雪山国立公園上川地区登山 道保守点検等業務	議会、上川自然保護官事務所、上 川総合振興局、上川中部森林管理 署 上川自然保護官事務所 上川自然保護官事務所 上川自然保護官事務所、上川総合	黒岳7合目 黒岳石室~赤石川間登山道	
GSSのための登山道補修技術の研修 上川自然保護官事務所、上川中部森林管理 署、上川総合振興局合同巡視 平成28年度大雪山国立公園上川地区登山 道保守点検等業務	上川自然保護官事務所上川総合	黒岳石室~赤石川間登山道	層雲峡地区周辺
上川自然保護官事務所、上川中部森林管理署、上川総合振興局合同巡視平成28年度大雪山国立公園上川地区登山道保守点検等業務	上川自然保護官事務所、上川総合		1
署、上川総合振興局合同巡視 平成28年度大雪山国立公園上川地区登山 道保守点検等業務		整備	層雲峡地区周辺
道保守点検等業務		雲の平	雲ノ平、北海平地区周辺
亚成28年度大乗山国立公周東川等内登山	合同会社北海道山岳整備	沼J平姿見の池線道路(歩 道)	雲ノ平、北海平地区周辺
<b>一 一 一                                </b>	合同会社北海道山岳整備	沼J平姿見の池線道路(歩道)、層雲峡勇駒別線道路 (歩道)、中岳裾合平線道路 (歩道)	複数範囲
	東川自然保護官事務所 協力:上川総合振興局環境生活 課	中岳裾合平線道路(歩道)	旭岳周辺
	富良野市 協力:東川自然保護官事務所、富 良野山岳会、大雪山国立公園パー クボランティア連絡会 共催:上川南部森林管理署	原始ヶ原線	富良野岳周辺
	鹿追町(然別自然休養林保護管 理協議会)	然別湖外輪山(西ヌプカウシ ヌブリ、東ヌプカウシヌプリ、白雲 山士幌高原コース)	然別湖周辺
	ひがし大雪自然館運営協議会、上 士幌自然保護官事務所	ニペソツ山	ニペソツ山周辺
ササ刈げ)  俊  木が、  埋姜	上士幌町、ひがし大雪自然ガイドセン ター	十六ノ沢コース登山口〜ニペソ ツ山頂	ニペソツ山周辺
	上士幌町、ひがし大雪自然ガイドセン ター	シュナイダーの肩〜シュナイダー 登山口	石狩連峰周辺
ササ刈り、倒木処理等	上士幌町、ひがし大雪自然ガイドセン ター	糠平コース新登山口〜ウペペ サンケ山西ピーク	ウペペサンケ山
ササ刈げ)  俊  木が、  埋姜	上士幌町、ひがし大雪自然ガイドセン ター	白雲山士幌高原登山口~白 雲山登山口	然別湖周辺
倒木処理	上士幌自然保護官事務所	南ペトウトル山登山道	然別湖周辺
טוא <del>טט</del>	しほろ自然環境に親しむ会	白雲山士幌高原コース	然別湖周辺
赤石灰撒き、草刈り	新得町	トムラウシ温泉登山口〜短縮 コース登山口〜トムラウシ山	トムラウシ山周辺
登山道の軽微な補修	上士幌自然保護官事務所	トムラウシ温泉登山口〜短縮 コース登山口〜トムラウシ山	トムラウシ山周辺
歩道の刈払い	上川中部森林管理署	ニセイカウシュッペ山	ニセイカウシュッペ山周辺
1##XIIN 0-75EN	大雪山国立公園パークボランティア連 絡会	永山岳方面、半月湖周辺	愛山渓地区周辺
登山道点検等	上川自然保護官事務所	三十三曲~当麻乗越	愛山渓地区周辺
登山道点検等	上川自然保護官事務所	沼ノ原	沼ノ原地区周辺
(詳細なし)	NPO法人かむい	銀泉台~赤岳	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
(詳細なし)	NPO法人かむい	黒岳	層雲峡地区周辺

登山道補修後の点検(協働型作業)	上川自然保護官事務所	雲ノ平、北海平、赤石川周辺	雲ノ平、北海平地区周辺
旭岳自然保護対策事業	東川町大雪山国立公園保護協会、 NPO法人大雪山自然学校	旭岳周辺	雲ノ平、北海平地区周辺
歩道の刈払い	上川中部森林管理署	勇駒別	旭岳周辺
	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	旭岳周辺	旭岳周辺
ローブ張り、ササ刈り	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	愛山渓周辺	愛山渓地区周辺
登山道修繕	東川自然保護官事務所	沼ノ平〜姿見の池線、中岳温 泉〜間宮分岐線	旭岳周辺
登山道刈払い	上川中部森林管理署	美瑛富士登山道	十勝岳、美瑛富士周辺
倒木処理、段差処理	美瑛山岳会	美瑛富士登山道	十勝岳、美瑛富士周辺
ササ刈り、登山道補修等	美瑛山岳会	美瑛岳登山道	十勝岳、美瑛富士周辺
導流工、路面整備	美瑛山岳会	十勝岳登山道	十勝岳、美瑛富士周辺



携帯トイレブース



# ▶大雪山国立公園におけるトイレの現状

平成30年10月18日現在 上川·東川·上土幌自然保護官事務所

L									7 -		上川・東川・上士幌目然保護官事務所
	場所	中町	遊難小屋・山小屋	野営場	$\Sigma$	野外し尿の 状況	携帯Mレ ブース		回収ポックス		携帯トイレ販売
	出岳	III	有 (管理人有)	有 (野営指定地)	有	币	無	ı		1	
	裏旭	東川	無	有 (野営指定地)	#	÷	無	_		1	
	白雲岳	III T	有 (管理人有)	有 (野営指定地)	巨	÷	#	-		ı	
	忠別岳	II/T	有	有 (野営指定地)	有	#	無	ı		ı	
	ヒサゴ沼	新得	有	有 (野営指定地)	有	#	無	ı		ı	
	南沼	新得、美瑛	無	有 (野営指定地)	#	RA	柜	1		ı	
田田	沼ノ原大沼	T)II	無	有 (野営指定地)	無	未確認	兼	_		ı	
型	ブヨ沼	上土幌、上川	無	有 (野営指定地)	#	#	無	1		ı	
	小天狗のコル	上土幌	無	有 (野営指定地)	#	棋	無	_		1	
	ニペンツ山前天狗	上土幌	無	有 (暫定的な野営 <sub>指定地)</sub>	#	Ť	有	ı		ı	
	双子池	美瑛、新得	無	有(野営指定地)	無	PAPA PAPA	無	1		1	
	美瑛富士	美瑛、新得	争	有 (野営指定地)	無	M	有	1		1	
	十勝岳避難小屋	美瑛	有	無	無		無	-		1	
	上木口カメットク	上富良野、新得	有	<b>有</b> (野営指定地)	有	令	無	_		1	
	屠雲峡	II(Ŧ	無	有	有	<b>#</b>	<b>#</b>	有	設置は環境省、回収は 上川町	单	○屠雲峡ビジターセンター ○黒岳ロープウェイ売店 ○屠雲峡各大手ホテル等
	愛山渓温泉	F)II	有	無	有			有	設置・回収は上川町	負	〇愛山渓倶楽部
	銀泉台	F)II	無	無	有	棋	無	無		無	
	大雪高原温泉	II(Ŧ	自	無	自	無	無	有	設置は上川地区登山道 維持管理連絡協議会、 回収は上川町	無	〇大雪高原山荘
	姿見	東川	申	無	单	無	自	無		更	○旭岳ビジターセンター ○大雪山旭岳ロープウェイ
	旭岳温泉	東川	#	有	有	#	無	有	設置は振興局、回収は 東川町	有	同上
	天人峡	美瑛	無	無	有			無		無	
		下川	無	無	有 (仮設)			無			
		美瑛	無	無	無	棋	無	無		無	 
	白金温泉望岳台歩道登山口 (白金温泉観光センター)	美瑛	無	有	柜	無	#	有	設置は山のMVを考える会、回収は美瑛町	佢	○湯元白金温泉ホテル ○大雪山白金温泉観光ホテル ○ホテルパークセルズ
	望岳台	美瑛	<b></b>	無.	便,			有	_	無 ⋅	○十勝岳望岳台防災シェルター
神 =	吹上温泉十勝兵温泉	上富良野		有	便 使			<b>声</b>	回収は上富良野町 回収は ト富良野町	便 有	〇白銀杆〇十聨兵温泉凌雲閣
	原始ヶ原登山口	富良野	無	<b>( )</b>	中			:無		:無	
	シュナイダーコース登山口	上士幌	無	無	有			無		無	
	7二石狩岳登山口	上土幌	無	無	無	無	無	無		無	
	トムラウシ温泉コース登山口	新得	無	無	鱼	無	無	有		巨	○トムラウシ温泉東大雪荘
	トムラウシ短縮コース登山口	新得	無	無	有	棋	無	有	設置は北海道、回収は 新得町	負	○トムラウシ温泉東大雪荘
	十勝岳新得コース登山口	新得	無	無	無	#	無	無		無	
	ニペソツ山十六の沢コース登山口	上士幌	無	無	有	#	無	有		無	
	ニペソツ山幌加温泉コース登山口	上土幌	無	無	有	#	無	有	設置は北海道、回収は 上士幌町	無	
	ウペペサンケ山登山口	上士幌	無	無	無		無	無		自	○ひがし大雪自然館
		上士幌	無	無	無		無	無		恒	○ひがし大雪自然館
		鹿追	無 J	無	世 -		無 1	無 1		無 1	
	日野山然別湖側埼山口	鹿追土帽		###	<b>自</b>		# 1	# #		# 1	
		1 電		##	正 俳		# #	##		# #	
	来メンガランメング毎出口 西ヌブカウシヌブリ脅山口	底 鹿追	<b>集</b> #	##	重 恒	# #	# #	# #		<b>新</b>	
				¥.	1			ŧ		E	

# ▶公園利用において想定されるリスク

### 【想定されるリスク】

- 滑落
- 雪崩
- 道迷い
- 強風
- 転倒
- 濃霧

ハチ

- クマ
- 熱中症 • 低体温症

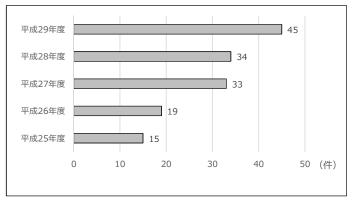


図 平成25~29年度大雪山国立公園での事故件数

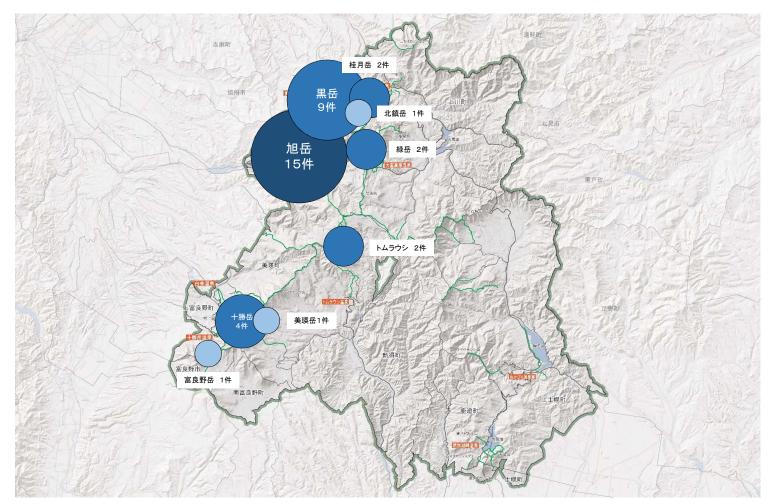
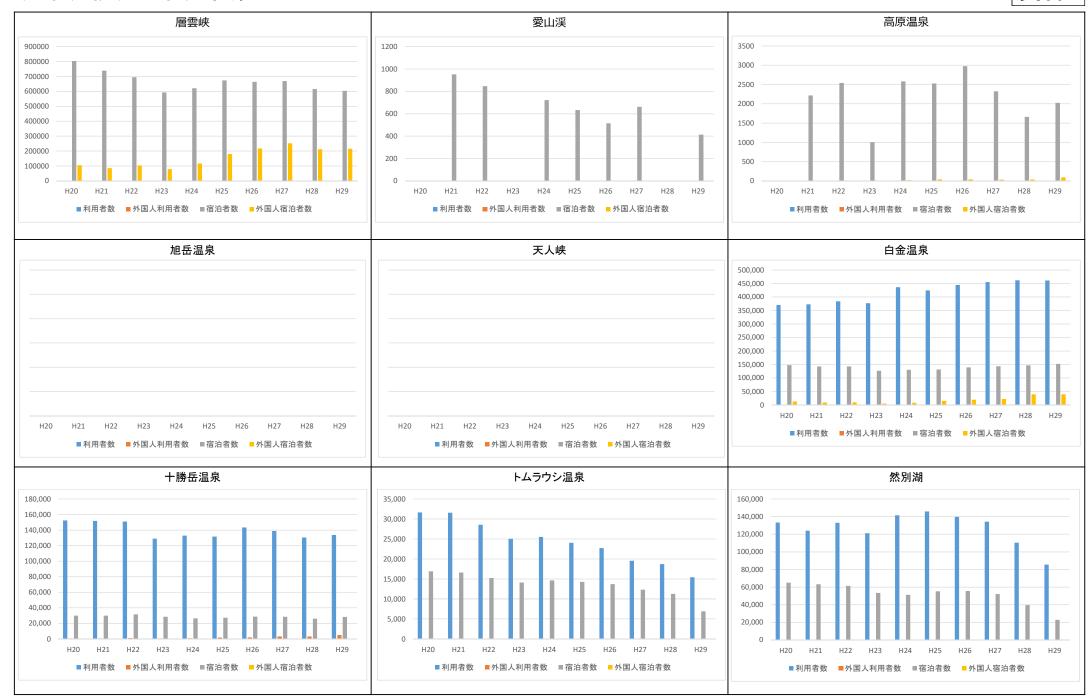


図 平成29年度大雪山国立公園での遭難事故件数

表 亚成20年度連難事故の詳細

発生日 4月8日 (土) 4月14日 (金) 5月4日 (木) 6月2日 (金)			9年度遭難事故の詳細 T <sub>遭難者</sub>			
4月14日(金) 5月4日(木)	山岳名	山系				461M
4月14日(金) 5月4日(木)			居住地	性別	年齢	態様
5月4日(木)	黒岳	大雪山系	中国	男	30代	負傷
5月4日(木)	40 C	1 = 1.5	中国	女	20代	負傷
	旭岳	大雪山系	島根県	男	30代	負傷
5月2日(金)	暑寒別岳	増毛山地	北海道	男	60代	無事
5/ JEH (M/	旭岳	大雪山系	北海道	女	10代	負傷
6月5日 (月)	黒点	大雪山系	フィンランド	男	20代	無事
5月5日 (月)	杰位	人当山米	フィンランド	女	20代	無事
6月11日(日)	十勝岳	十勝岳連峰	東京都	男	50代	死亡
6月15日 (木)	旭岳	大雪山系	山梨県	男	60代	死亡
6月17日(土)	黒岳	大雪山系	北海道	女	60代	負傷
			北海道	男	60代	無事
6月18日(日)	十勝岳	十勝岳連峰				
6月23日(金)	北鎮岳	大雪山系	大阪府	男	50代	無事
5月23日(金)	旭岳	大雪山系	兵庫県	男	40代	無事
5月24日(土)	トムラウシ	十勝岳連峰	北海道	男	70代	負傷
7月3日(月)	南暑寒岳	増毛山地	茨城県	男	50代	負傷
7月4日(火)	利尻山	利尻山	茨城県	男	40代	無事
7月7日(金)	利尻山	利尻山	東京都	女	60代	負傷
7月9日(金)	十勝岳	十勝岳連峰	徳島県	<del>-</del>	60代	負傷
7月10日(月)	利尻山	利尻山	兵庫県	男	70代	無事
	緑岳	大雪山系	神奈川県	女	70代	負傷
7月13日(木)						
7月14日(金)	旭岳	大雪山系	北海道	女	70代	負傷
7月15日(土)	トムラウシ	十勝岳連峰	千葉県	男	60代	負傷
7月16日(日)	緑岳	大雪山系	兵庫県	女	60代	負傷
7月21日(金)	旭岳	大雪山系	山梨県	女	60代	負傷
7月24日(月)	富良野岳	夕張山地	埼玉県	男	70代	負傷
7月24日(月)	利尻山	利尻山	広島県	男	60代	負傷
·/」とマロ (月)	1717 ULLI	77176111	北海道	男		負傷
8月13日(日)	桂月岳	大雪山系			20代	
			東京都	男	20代	無事
8月20日(日)	旭岳	大雪山系	神奈川県	男	70代	負傷
3月20日(日)	暑寒別岳	増毛山地	北海道	男	60代	負傷
3月20日(日)	暑寒別岳	増毛山地	北海道	女	30代	負傷
3月31日(木)	利尻山	利尻山	カナダ	男	30代	負傷
9月10日(日)	美瑛岳	十勝岳連峰	北海道	女	70代	負傷
9月17日(日)	旭岳	大雪山系	北海道	男	60代	負傷
		大雪山系				
9月23日(土)	旭岳	人当山米	北海道	女	50代	負傷
			神奈川県	男	70代	負傷
10月17日(火)	旭岳	大雪山系	神奈川県	女	60代	負傷
10/11/11 ()()	/6Ш	八当山水	マレーシア	男	20代	負傷
			シンガポール	女	20代	負傷
1月7日(火)	十勝岳	十勝岳連峰	北海道	男	40代	無事
12月6日 (水)	黒岳	大雪山系	北海道	男	20代	負傷
2/10日 (//()	жш	八当山水	91	男		
2850 (4)	甲丘	十悪いで	- 1		30代	負傷
12月5日(火)	黒岳	大雪山系	91	男	30代	負傷
		ļ	タイ	男	20代	負傷
		1	大阪府	男	40代	無事
	北の峰	夕張山地	大阪府	女	40代	無事
12日23日 (+)	コレジル事	2 JIXILIAR	大阪府	男	10代	無事
12月23日(土)	1	1	大阪府	女	10代	無事
12月23日(土)		+				
12月23日 (土)			福岡県		20代	無事
12月23日(土)				女	20代	
12月23日(土)			福岡県	女 女	20代	無事
	北小原	力進山#h	福岡県福岡県	女 女 女	20代 20代	無事無事
	北の峰	夕張山地	福岡県 福岡県 福岡県	女 女 女 男	20代 20代 20代	無事無事
	北の峰	夕張山地	福岡県 福岡県 福岡県 福岡県	女 女 女 男 女	20代 20代 20代 20代	無事無事無事
	北の峰	夕張山地	福岡県福岡県福岡県福岡県福岡県福岡県	女 女 女 男 女 男	20代 20代 20代 20代 20代 20代	無事無事無事無事無事
	北の峰	夕張山地	福岡県 福岡県 福岡県 福岡県	女 女 女 男 女	20代 20代 20代 20代	無事無事無事無事無事無事無事無事
.12月30日(日)	北の峰	夕張山地大雪山系	福岡県福岡県福岡県福岡県福岡県福岡県	女 女 女 男 女 男	20代 20代 20代 20代 20代 20代	無事無事無事無事無事
12月30日(日)			福岡県福岡県福岡県福岡県福岡県福岡県福岡県福岡県	女 女 女 男 女 男 女 男 女	20代 20代 20代 20代 20代 20代 20代	無事無事無事無事無事無事無事無事
.12月30日(日)			福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 スウェーデン フランス	女女女男女男女女男	20代 20代 20代 20代 20代 20代 50代	無事事 無無事事 無無事事 無無事 無無 無 無 無 無 無 無 無 無 無
1.2月30日(日) 1.月6日(土)	旭岳	大雪山系	福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 スウェーデン フランス フランス	女女女男女男女女男男	20代 20代 20代 20代 20代 20代 50代 50代	無無無無無事事事事事 無無無無無 無無無 無 無 無 無 無 無 無 無 無
1.2月30日(日) 1.月6日(土)			福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 フランス フランス フランス	女女女男女男女女男男女	20ft 20ft 20ft 20ft 20ft 20ft 50ft 50ft 50ft 50ft	無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無
1.2月30日(日) 1.月6日(土)	旭岳	大雪山系	福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 石岡県 石ヴェーデン フランス フランス フランス フランス	女女女男女男女男男女男	20代 20代 20代 20代 20代 20代 50代 50代 50代 50代	無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無
1.2月30日(日) 1.月6日(土)	旭岳	大雪山系	福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 スウェーデン フランス フランス フランス フランス フランス	女女女男女男女男男女男男	20ft 20ft 20ft 20ft 20ft 20ft 50ft 50ft 50ft 50ft 50ft	無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無
12月30日(日) 1月6日(土) 2月8日(木)	地岳北の峰	大雪山系	福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 フウェーデン フランス フランス フランス フランス フランス フランス	女女女男女男女女男男女男男男男男	20代 20代 20代 20代 20代 20代 50代 50代 50代 50代 50代 50代	事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事
12月30日(日) 1月6日(土) 2月8日(木)	旭岳	大雪山系	福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 スウェーデン フランス フランス フランス フランス フランス	女女女男女男女男男女男男	20ft 20ft 20ft 20ft 20ft 20ft 50ft 50ft 50ft 50ft 50ft	無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無
12月30日 (日) 1月6日 (士) 2月8日 (木) 2月14日 (水)	地岳北の峰	大雪山系	福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 フランス フランス フランス フランス フランス フランス フランス	女女女男女男女女男男女男男男男	20ft 20ft 20ft 20ft 20ft 20ft 50ft 50ft 50ft 50ft 50ft 50ft 50ft 40ft	事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事
12月30日 (日) 1月6日 (士) 2月8日 (木) 2月14日 (水) 2月24日 (土)	北の峰北の峰北の峰	大雪山系 夕張山地 夕張山地 夕張山地	福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 石の田県 石の田県 石の田県 フランス フランス フランス フランス フランス フランス フランス フランス	女女女男女男女女男男女男男男男男	20ft 20ft 20ft 20ft 20ft 20ft 50ft 50ft 50ft 50ft 10ft 40ft 50ft	無事事 無無事事事 無無事事事 無無事事事 無無無 無無無 無無 無無 無 無 無 無 無 無 無 無 無 無 無 無 無
12月23日(土) 12月30日(日) 1月6日(土) 2月8日(木) 2月14日(水) 2月24日(土) 3月18日(田)	北の峰北の峰	大雪山系 夕張山地	福岡県 福岡県 福岡県 福岡県 石ウェーデン フランス フランス フランス フランス フランス フランス フランス フラン	女女女男女男女女男男女男男女	20ft 20ft 20ft 20ft 20ft 20ft 50ft 50ft 50ft 50ft 50ft 50ft 50ft 40ft	無事事 無無事事事 無無事事事傷 無無事事事 負無事事事事 無無無無無無無 無無 無無 無 無 無 無 無 無



# ▶大雪山国立公園関係市町の人口予測

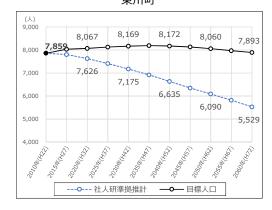
全体(1市9町の合計値)



上川町



東川町



美瑛町



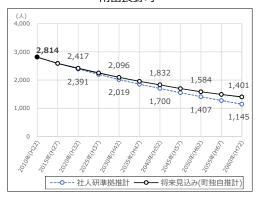
上富良野町



富良野市



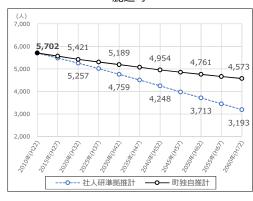
南富良野町



新得町



鹿追町



士幌町



上士幌町



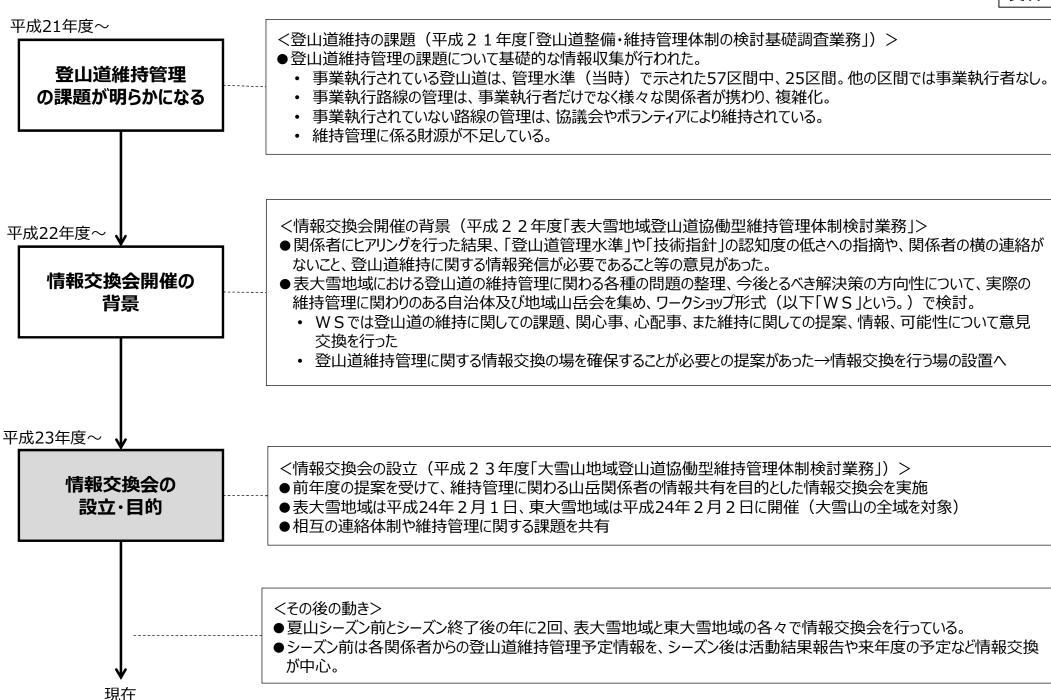
● 各市町の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定のための「人口ビジョン」より抜粋

※社人研準拠推計:国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口 (平成25年(2013年)3月推計)

※町独自推計・目標人口等:出生や移動の仮定を設けて独自に推計し人口ビジョンに示した値(2040年もしくは2060年まで示されている)

# ▶ 大雪山国立公園連絡協議会の経緯

経緯	・設立は、平成5年12月(大雪山国立公園指定60周年を契機)。
<b>小土小</b> 年	・既存の大雪山国立公園東大雪連絡協議会(環境庁、十勝支庁、東大雪4町)は解消。
目的	・大雪山国立公園の関係機関相互の情報交換、連絡調整を図ること及び必要な管理事業を実施すること
	により、大雪山国立公園の現地業務を円滑に遂行し、国立公園地域の健全な発展に資する。
	・上川町(会長)、東川町(副会長)、美瑛町(監事)、上富良野町、富良野市、南富良野町、新得町、
  構成及び役員体制	鹿追町(監事)、士幌町、上士幌町(副会長)
	・北海道上川総合振興局、十勝総合振興局
	・環境省北海道地方環境事務所
	・国立公園の管理に関する情報交換、連絡調整及び事業
事業内容	・国立公園の保護及び利用に関する研修及びその適切な推進
	・国立公園の施設整備促進に関する企画調整、調査及び研修等
	・地元市町が分担金を拠出。
	・全額(100%)のうち、全市町一律の基礎的な負担(会議費及び通信費の趣旨)によるものが20%、
分担金	国立公園指定面積に応じた傾斜配分による負担によるものが22%、施設の収容力に応じた傾斜配分に
	よる負担によるものが22%、利用計画の存在に応じた傾斜配分による負担によるものが36%で構成さ
	れている。
	・分担金の理由に、国立公園の利用に関する理由が挙げられていること、その割合が6割にも上る。
意義	このことから、自然公園法に基づく許認可制度の運用及び施設の整備を通じた国立公園の管理運営を
<b>思我</b>	補完するため、地元自治体からは快適で適正な利用の増進に資する事業を実施することが本協議会に
	特に期待されていると考えられる。



## 大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)準備会(第1回) 議事概要

■日 時:平成30年11月27日(火)13:00~15:00

■場 所:上川町保健福祉センター2階ホール

■出席者:資料のとおり(出席者名簿のうち東川町、美瑛町及び道北バスは当日欠席)

### ■概 要

1. 開会(挨拶:北海道地方環境事務所 大林統括自然保護企画官)

### 2. 議事

- (1) 大雪山国立公園ビジョンの策定に向けた関心事項の洗出しの結果について (事務局)
- ・ 資料1及び参考資料1に沿って説明。
- ⇒質問、意見等なし。
  - (2) 大雪山国立公園ビジョンについて
  - (3) 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築について (事務局)
- ・ 資料2に沿って説明。ビジョンの骨子案の文言は、立場や意見が異なる構成員が共有できる将来像として提示したものであり、みなさまからいただいた個別の意見を内包しているものと理解いただきたい。次回ご提示する素案以降は文章の形となるが、個別の意見を活かして作成したいと考えている。
- ・ 資料3に沿って説明。「大雪山国立公園における新たな協働管理運営体制(案)」について、事前説明時からの主な変更点が2点ある。1点目は、「総合型協議会が登山道維持管理部会を設置して専門的な検討をするよう指示し、その結果を総合型協議会に報告する」という関係を追記した。これに伴い、登山道維持管理部会の代表者を協議会メンバーとする形とした。準備会に先立つ意見照会の中で登山道の荒廃対策に関して数多くの意見があり、これが共通の重要な課題であると考えられたため。ただし、部会の代表者をどのように選出するかは未定。2点目として、研究者については大雪山国立公園研究者ネットワークを協議会メンバーとする案としていたが、個々の研究者を協議会メンバーとする形に修正した。当該ネットワークの活動実態を踏まえ、また、個々の研究者が、それぞれの専門的、科学的見地から総合型協議会で行われる議論に対してアドバイスをする者として参画した方が、議論のより円滑な進行が期待できると考えられるため。
- ・ また、公園管理を担う民間団体を育成していくことも、本協議会で議論すべき大きな課

題であると考えている。

⇒以下、主な質疑応答。

### (十勝自然保護協会)

「大雪山グレード」と「大雪山ブランド」という用語について説明いただきたい。

### (事務局)

- ・ 「大雪山グレード」は、平成 27 年度に北海道地方環境事務所で定めたもので、国立公園内の登山道を5段階に分け、グレードごとに登山道の管理の仕方や難易度を示したもの。後日資料を送付する。
- ・ 「大雪山ブランド」は、ビジョン策定に向けた関心事項の洗出しの中で意見として出ている文言であるが、特に決まった定義があるものではなく、大雪山が持つ価値についての認識が関係者で共有化され、発信されている状態という意味で用いられているものと考えている。

### (ひがしかわ観光協会)

・ 事務局の説明を聞いていても、資料を探すのに精一杯で、内容が頭に入ってこない。何が目的でこの取組をやっているのかもわかりにくいので、大雪山の価値をまずはみんなで共有することから始め、次にそれをどのように活かしていくのかという議論を進めるような進め方をしていただきたい。

### (事務局)

- ・ よりわかりやすい資料作りを心がけたい。大雪山の価値については、次回会議で示すビジョン素案の中でわかりやすくまとめて案を提示できるものと思うので、それをもとに 議論したい。
- ・ また、次回準備会では事前に会議資料を提示し、ある程度内容を把握していただいた上 で会議にご出席いただけるようにしたい。

### (旭川電気軌道(株))

・ この協議会を立ち上げ、ビジョンを作ることにより、国から予算が付くなどの仕組みが あるのか。

### (事務局)

・ この協議会を作ることにより予算に直結するということではない。国立公園には近年今までにない様々な課題が出てきている。国立公園には多様な主体が関わっているので、それぞれの立場からお知恵をいただき、国立公園をより良くしていくための場として、本協議会を設けるもの。ビジョンは国立公園をより良くするための共有認識に基づく方針として作成するものである。

### (大雪と石狩の自然を守る会)

- ・ 「1. 大雪山国立公園の優れた価値と歩み」の中では、エコパークなど様々な枠組みが ある中で、国立公園が果たすべき役割を改めて整理し示すべきと考える。
- ・ 「2. 大雪山国立公園の現状と課題」については、産業開発も過去から大きな影響を及ぼしているので、これについても整理する必要がある。
- ・ 尾瀬ビジョンでは「生きもの」「利用者」「地域」の3つの視点から記載をしている。このような視点の考え方を活用すれば、産業開発のあり方についてもビジョンに織り込めるのではないか。特に「地域」の視点は重要。

### (上富良野町)

・ 「3. 大雪山国立公園の目指す姿」に「大雪山」という言葉が使われているが、「大雪山」は旭岳周辺を指し、十勝岳連峰や東大雪は含まれないというのが一般的な認識ではないか。

### (事務局)

・ ビジョンの策定を契機に、「大雪山」は大雪山国立公園全域を示すものときちんと整理、 発信したい。

### (ふらの観光協会)

- ・ 「だいせつざん」なのか「たいせつざん」なのかというレベルの議論があったりもする ので、まず認識の統一のための研修会をやっても良いのではと感じた。
- ・ そもそもこの協議会は、大雪山の自然環境を保護していくための場なのか、あるいは今 後インバウンドも含め利用を右肩上がりに増やし続けていくための場なのかをはっき りさせた方が良い。おそらく両方ということだと思うが。
- ・ それらを推進していく母体がこの協議会であるが、行政の担当者は異動で替わるため、 ゆくゆくは民間主導で動かしていけるようになると良いと思う。取組を進めるためには 行政の予算だけでは無理があるため、ICT を活用して入山料を徴収するなど資金確保の 仕組みも検討するべきである。ICT は遭難対策にも活用可能だろう。

### (南富良野まちづくり観光協会)

- ・ 当町に係る国立公園区域は狭いため、国立公園内での取組は行われていないが、町全体 として、現在アウトドアツーリズムが盛んになっている。地域に人が定住し、その人が ガイド等を行って自然を活かし利用していくことで、自然が守られる仕組みが重要との 考えで取組をしている。大雪山でも、専門性の高いガイド育成を行い、ガイド付きのツ アー事業を展開し、ガイドが付かないと入ることができない、利用者から徴収したお金 を自然環境の保全に充てる、というような仕組みを作っていくべきではないか。
- ・ 今までの発言を聞いていると、大雪山はまだ山の名前さえ統一した認識がない状態であるが、早く世界に発信できる大雪山のブランドを立ち上げ、みんながそれを共有するべきである。

### (上川総合振興局)

・ 行政はプラン作成に多くの時間とエネルギーを割く傾向があるが、大事なのはプラン作りそのものよりも、実際に何をやるかである。今回のビジョンについても、ビジョンが重要であることはそのとおりだが、ビジョンの策定に時間をかけすぎるよりは、早く具体の課題解決のための議論に入り、時間をかけたい気持ちがある。

### (大雪と石狩の自然を守る会)

・ 確かにプランを作って実行されないことは多々あるが、現在、国立公園自体が歴史的な 転換期に来ていると考えており、今回のビジョン作成は大雪山にとって節目となるので、 将来に向けてしっかりしたものを作り上げる必要がある。単に協議会構成員から出た意 見をまとめ上げるだけでは足りない部分があると思われ、専門家も含めた作業チームを 結成して取り組んではどうか。

### (事務局)

・ 今回は、日程の都合上、研究者の方々にお越しいただくことができなかったが、次回会 議ではお越しいただけるよう調整したい。ご指摘を踏まえ、進め方については工夫して いきたい。

### (ひがしかわ観光協会)

- ・ このような大人数の会議だと発言の機会が少なくなり、実質的な議論ができないことが 懸念される。活用の仕方などは別で部会を作るなど、参集の仕方、進め方は工夫をした 方が良い。
- ・ 「大雪山」という言葉に十勝岳連峰は含まれるのかなど、山の名称の認識が構成員間で バラバラであるところだが、「環大雪」の視点で考えていくことが大事だと思う。また、 国立公園区域外にも、大雪山の恩恵を受けている者は多くいるはず。

### (かみふらの十勝岳観光協会)

・ 山の名称の認識がバラバラなのは気になるところ。今回会議で初めて会った方が多く、 誰がどの組織の方で、どのような考えを持っているのかがわからない。これからこのメ ンバーで国立公園をより良くするための取組を進めるにあたり、まずはバラバラでも良 いので各構成員の国立公園に関するイメージや考えを出し合うべきではないか。

### (事務局)

- 大雪山に対するみなさんの思い入れの強さを感じるところ。
- ・ 課題はたくさんあるので、優先順位をつけながら取り組んでいきたいと考えている。大 雪山では登山道の維持管理がみなさんの共通の重要課題であるため、まずはこれについ て部会を設け取り組んでいきたい。立ち上げ当初はどうしてもバタバタするため、ある 程度組織運営が軌道に乗ってきたら、次の課題への取り組み方も考えていく、という進 め方をしたい。
- 1回目の準備会であるため、まだご発言のない団体においても、ぜひ積極的にご意見い ただきたい。

### (北海道運輸局観光部)

- ・ 当方としてはアドベンチャートラベルの事業を展開しているところであるが、ガイドの 不足が課題となっており、現在ガイド育成の取組も進めているところ。本協議会とはそ のような観点からうまくマッチングして関わっていければと考えている。
- ・ 個人的には登山道協働管理の課題に対して高い関心を持っている。自然環境は一度壊れてしまうと復元が難しく、利用ができなくなれば観光業にも影響するので、まず登山道 荒廃の課題に取り組む方向性に対して共感している。
- ・ 一方で、自然が地域にもたらす価値とは何かという点が、観光や地域住民にとって重要な観点だと思うので、そのあたりも次のステップとして議論していただければありがたい。

### (北海道開発局)

・ 当方では外国人の観光利用の動向をアプリを活用して分析している。ドライブによる観光については、道内では道央圏の利用が最も多いが、それ以外の地域では黒岳ロープウェイの利用が非常に多い。背景はまだ不明だが、そうした分析の結果を本協議会で提示できればと思っている。

### (上川中部森林管理署)

- ・ 官と民が一体となって大雪山のために取り組む体制ができることに期待している。
- ・ 国有林行政としては、産業振興をしていくことと、土地所有者として自然環境を守ることの両立を図る必要がある中で、正直悩む部分もある。本協議会をお互いの意見をやり取りする場としてうまく活用させていただきたい。

### (南富良野町)

・ 当町は国立公園内に利用施設がないため、これまであまり国立公園を活用してこなかったが、今回の管理運営体制の転換を機に、町としても何らかの形で利活用をしていければと思う。

### (上川町)

- ・ 上川町内には多くの登山口があるが、近年、気象災害により登山口までのアクセス道が 通行止めになることが多く、利用に影響が出ている。
- ・ また、銀泉台及び大雪高原温泉に至る町道ではマイカー規制を行っており、利用者から協力金を得ているが、多くの利用者から協力金が登山道整備に使われることを期待する意見があった。そのため、協力金の一部を上川地区登山道等維持管理連絡協議会の登山道整備会計に繰り入れ、登山道整備や整備を行う団体への支援に使ってもらうことを、マイカー規制協議会の中で提案したいと考えている。

・ 他にも町としての取組は多くあるが、新たな管理運営体制の設立により、国立公園の利 活用がより推進されることを期待している。

### (十勝自然保護協会)

・ ビジョンではぜひ「1. 大雪山国立公園の優れた価値と歩み」をしっかりと作り込んでいただきたい。特に生物多様性や生態系の保全を柱としてしっかりと入れてほしい。土台となる自然環境がしっかりと保全されなければ、集客という話が前面に出てくるだけで貴重な遺産を次世代へつなぐことができなくなってしまう。

### (大雪と石狩の自然を守る会)

資料3に記載されている民間団体とは具体的にどのようなイメージか。

### (事務局)

・ 現時点では、具体的な見通しはない。資料に記載しているようなことを担ってくれる民間団体が今後立ち上がるか、育ってくると良いと考えている。

### (事務局)

- ・ ビジョンについてもし今回言い足りなかったことがあれば、後ほど事務局に連絡いただ きたい。
- ・ 今回の欠席者についても別途意見は聴取する予定であり、それを踏まえてビジョンの素 案を作っていく。第2回準備会の前には、みなさんに素案を提示できるようにする。

### (4) 大雪山国立公園フォーラムの開催について

### (事務局)

・ 資料4に沿って説明。

⇒以下、主な質疑応答。

### (ひがしかわ観光協会)

パネルディスカッションとあるが、このフォーラムは何らかの結論を導き出すものなのか。

### (事務局)

・ 他地域の事例も踏まえて知恵を出し合うための場であり、何らかの結論を導く場ではないが、フォーラムで出た知恵や意見は、素案づくりはじめ、今後の議論に活かしていきたい。

### 3. 閉会